

「ポイント」方騰貴シ其中七分利附「ドーズ」案公債ハ七月九日六八弗^(マ)弗ニ又五分半利附「ヤング」案公債モ四九弗ニ達シ何レモ本年ノ新高値ヲ示シ其他ノ歐洲債券何レモ上騰シタリ、但シ之等騰貴ハ必シモ独乙經濟等ノ將來ニ對スル樂觀ニ基クモノトハ限ラス相當投機的考慮ニ出ツルモノアルカ如ク現ニ七月十一日ニハ利潤ノ輸取及紳士協約ニ對スル米國上院議員ノ態度カ悲觀材料トナツタル為之等債券ハ多少宛々下落セリ、尚右協定成立ニ當リ當市場株式客

*事項編注

本件會議については、同會議我が方全權団作成の會議報告書が既刊『日本外交文書 昭和期國際連盟經濟關係會議報告書集』第二卷に収録されているので本件會議の詳細な討議内容などについては同書参照。

年夏米國大統領カ所謂國際債務「モラトリアム」ヲ提案シタル時ノ景氣トハ反對ニ殆ント上騰セス却ツテ下落ノ傾向ヲ示シタルハ注意ニ値ス、右ハ蓋シ所謂紳士協約ニ對スル米國政治界ノ態度ヲ反映シタルモノト觀察セラレ居レリ
右報告申進ス
本信寫送付先 在米大使

三 國際連盟における諸問題*

112 昭和7年1月26日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

ドラモンド連盟事務総長の辭職問題に関する

理事会秘密会の討議状況について

別 電 一月二十六日発在ジュネーヴ沢田連盟事務局

長より芳沢外務大臣宛第五号

ドラモンド事務総長の辭職願書

ジュネーヴ 1月26日前発

本 省 1月26日後着

第四號(極秘)

佐藤理事ヨリ

理事會二十五日午前第一回會議開催後秘密會ヲ開キ議長ヨリ「ドラモンド」ノ事務總長辭職ノ要求ニ關スル書面(別電第五號)ヲ呈示シ之ニ關スル處置振リニ付意見ヲ交換セリ右ニ付議長ハ先ツ「ド」ニ於テ辭職ノ決意ヲ翻ヘサンコトヲ懇請シ「ユーゴスラヴ」代表亦軍縮會議以前事務總長

ノ辭表提出ノ件世間ニ漏ルルハ異常ナル「センセイション」ヲ起ス可シトテ少クトモ五月理事會迄發表ヲ見合セ改メテ熟議セン事ヲ提議シタルモ「ド」ハ自己ノ辭表提出ハ熟考ノ結果ナル事ヲ指摘シ且五月理事會ニ於テ辭表ヲ提出セハ恰モ軍縮會議中ニ屬スルコトトテ一層事件ヲ紛糾セシム可シト述ヘ決意ヲ翻スコト無ク「セシル」卿モ單ニ「ド」ノ辭表撤回ヲ勸告スルハ「ド」自身ノ爲親切ナル考ヘ方ニ非ス理事會カ兩三日間之ヲ秘シテ熟考セントスルハ可ナルモ長ク之ヲ發表セサラントスルモ不可能ナリト述ヘ結局本日ノ秘密會ニ於テモ差當リ本件ヲ秘密ニ付シ二十八日ノ理事會秘密會ニ於テ改メテ意見交換ヲ行フコトト成レリ
卑見ニ依レハ本件ハ既ニ長キ以前ヨリノ問題ニモアリ「ド」ノ決意ハ到底翻スヘクモ非ス又聯盟ニ於ケル物質上ノ待遇ハ頗ル不充分ニシテ生活上ノ安定ヲサヘ得サル事情モ在リ旁々ナマジツカ同氏ノ留任ヲ希望スル理ニモ行カス

ト考ヘラル尤モ同日々刻ニ至リ「セシル」卿ト本件ニ關シ會談ノ機會アリ同卿ノ考ヲ聞キ得タル處右秘密會後佛國側「ボンクル」ヨリ「ド」ノ眞實ノ内情ニ關シ立入り尋ネ吳レマシキヤトノ依頼アリ一兩日中ニ自分ヨリ懇談ヲ試ミ度キ考ニテ或ハ軍縮會議後一年間モ現職ノ儘休養スル筈ノ條件テ辭職ヲ思ヒ止マラシムル様話シ見ル事モ一案カト考ヘ居レリト答ヘタリ就テハ以上ノ點ニ關シ御考量ノ上何分ノ貴見二十八日迄ニ御回訓ヲ請フ

(別電)

ジュネーヴ 1月26日後發
本省 1月26日後着

第五號(至急)

予ハ規約附屬書ノ任命ニ係リ且ツ十二年間勤務シタル事務總長ノ職ヲ辭セン事ヲ理事會ニ申出ツルノ光榮ヲ有ス予ハ既ニ可ナリ久敷キ以前ヨリ辭職ノ意嚮ヲ有シタリ然レトモ總會カ事務局ノ組織ニ關スル問題ヲ審査セル間ハ辭職ヲ差控フルヲ可ナリト思考セリ尙又軍縮會議ノ接近セル事ヲモ考慮ニ入レタリ予ハ一九三三年ノ半適當ナル時機ニ職ヲ離

ル次第ニ付適當ノ機會アラハ貴理事ヨリモ本大臣ヨリノ傳言トシテ右ノ次第ヲ「ド」ニ傳ヘラレ同氏ノ翻意ヲ促サル、様御措置アリタシ

114 昭和7年2月15日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛

連盟理事選舉法研究委員會に日本委員参加
方事務總長より要請について

付記 「聯盟理事選舉法研究委員會成立ノ経緯」
普通聯本公第一八號 (3月14日接受)

昭和七年二月十五日

在壽府

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏〔印〕
外務大臣 芳澤 謙吉殿

聯盟理事選舉法研究委員會ニ関スル件
今般聯盟事務總長ヨリ別添寫ノ通ノ書翰ヲ以テ客年總會ノ決議ニ基キ客月二十九日ノ理事會ハ日本外十四國ノ任命スル委員ヲ以テ聯盟理事選舉法研究委員會ヲ組織シ軍縮會議後之ヲ開催スルコトニ決シタル趣ヲ以テ本邦ノ右委員會參

レン事ヲ欲ス本書ハ規約第六條ノ規定ニ依リ之ヲ各聯盟國政府ニ通セラレン事ヲ望ム

編注 「半」の個所に「夏？」の書込みあり。

113 昭和7年1月28日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛 (電報)

ドラモンド連盟事務總長の留任懇憑方訓令

本省 1月28日後8時40分發

第一六號(極秘、至急)

貴電第四號ニ関シ

佐藤理事へ

「ド」氏ハ聯盟創始以來事務總長ノ要職ニ當リ聯盟カ今日ノ基礎ヲ確立スルニ至リタルハ全ク同氏ノ努力ニ負フモノト云フヘク軍縮會議ヲ目睫ノ間ニ扣ヘ且ハ現下國際政情不安ノ際同氏ノ離任ヲ見ルハ遺憾ニ堪ヘス同氏カ今回突如斯ル重大ナル決意ヲ表明スルニ至リタルハ深キ理由アルコトトハ察スルモ時局多端ノ際是非共留任ヲ希望セサルヲ得サ

加ノ有無回答方及委員ノ氏名通報方申越シタルニ付回答振御電報相成度シ

(付記)

聯盟理事選舉法研究委員會成立ノ経緯

本問題ハ客年九月ノ第十二回總會ノ第一委員會ニ上程セラレ劈頭英國代表「セシル」卿ヨリ本件ニ關スル決議案提出ノ理由ニ付説明アリ即チ

(イ)非常任理事ノ選舉ハ原則トシテ地理的團體ヲ標準トシテ行ハルル結果何レノ團體ニモ屬セサル國家例ヘハ葡萄牙ノ如キハ遂ニ理事ニ選出セラレサル事トナリ國家平等ノ原則ニ反ス

(ロ)非常任理事ノ選舉前立候補國ノ行フ裏面ノ運動ハ聯盟ノ品位ヲ保ツ所以ノモノニ非ス

之英國カ本提案ヲ爲ス所以ニシテ理事ノ數カ既ニ十分多數ニ上リ居ル今日英國ハ更ニ非常任理事ノ數ヲ増加セントスルモノニ非ス唯理事會選舉制度ニ關シ特別研究委員會ヲ任命センコトヲ提案スルモノナリト述フ

右ニ對シ各國代表ヨリ右提案ニ付意見ノ開陳アリ最後ニ

「セシル」卿ハ英國ノ提案ニハ一二反對又ハ延期ノ説アル
外大体ニ於テ贊成ヲ得タル處英國トシテハ本問題ニ對スル
研究力直ニ着手セラレンコトニ多大ノ期待ヲ懸ケ居ルモノ
ナリ但英國ノ提案ハ研究委員會カ次回總會ニ必ス報告ヲ提
出スル事ヲ要求シ居ルモノニ非ス又大多數ノ委員ハ非常任
理事増員ニ反對ナルカ如キモ研究委員會カ理事ノ増員ニ依
ルノ外國際間ノ正義ヲ實現スルノ方法ナシト認ムルカ如キ
場合ナシトセス。但シ事茲ニ至ラス現在ノ非常任理事數ノ
儘ニ止ランコトヲ希望スト述ヘタリ

總會宛報告書ヲ作成セリ

「總會ハ特別委員會ヲシテ現行理事會選舉制度ヲ研究セ
シメ且現行制度ニ加フルヲ適當トスヘキ一切ノ改正ニ
關シ今後ノ總會ニ報告書ヲ提出セシムヘキ事ヲ理事會
ニ要請ス」

九月二十五日午前ノ總會ニ於テ英國委員「セシル」卿ハ右
第一委員會ノ決定ヲ報告シタルカ總會ハ何等ノ議論ナク之

中適當ナル時期ヲ選ヒ之ヲ招集スルコトニ決議シタルカ今
般事務總長ヨリ閣下宛右決議ヲ通告越スト共ニ右開催期決
定次第通告スヘキ旨並代表者任命方取計ハレタキ旨申越シ
タリ右期日ハ目下全然不明、決定次第電報致スヘキモ代表
者其他ニ付豫メ御考慮置ヲ請フ

(付記)

条三機密第一一八號

昭和六年六月三日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在巴里

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏殿

不戰條約ノ締結ニ基ク聯盟規約改正ニ對スル帝國政府
ノ態度ニ關スル件

不戰條約締結ニ基ク聯盟規約改正ニ關スル十一人委員會案
及客年聯盟總會第一委員會案ニ對スル帝國政府ノ意見ハ曩
ニ電報ヲ以テ申進ノ通ナリ。

帝國政府ハ今日ト虽モ尚本件改正ノ必要ヲ認メズトスル從
來ノ見解ヲ改ムルモノニアラズト虽モ聯盟内部ノ大勢ニ鑑

ヲ可決セリ

115 昭和7年2月22日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

不戰條約と連盟規約との適合問題に關する委
員會招集についての理事會決議を連盟事務總
長より通報について

付記 昭和六年六月三日付幣原(喜重郎)外務大臣よ
リ在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛公信条三

機密第一一八号

不戰條約の締結に基づく連盟規約改正問題に
對する方針

ジュネーヴ 2月22日後発
本省 2月23日前着

第一二九號

客年總會ノ決定ニ基ク不戰條約ト聯盟規約トノ調和ヲ目的
トスル規約改正委員會招集方ニ關シ客月二十五日理事會ニ
於テ右委員會ノ開催ハ之ヲ事務總長ニ一任シ事務總長ハ軍
縮會議々長、理事會議長及本件報告者ト協議ノ上軍縮會議

ミ協調的精神ヲ以テ敢テ我主張ヲ固執セザルコトニ決定セ
ル次第ナリ。尚改正案ニ對スル帝國政府ノ意見右ノ通り貴
官御含込ニ申進ス

一、第十二条第一項改正案ハ兩案共ニ一般的戰爭禁止ヲ規
定シ本件改正ノ骨子ト存ゼラルル処不戰條約ト聯盟規約
トヲ調和セシムル見地ヨリシテ右案ガ極メテ妥當ナルモ
ノナリヤ否ヤニ關シ多少ノ疑ナキヲ得ザルモ本年三月十
八日附機密聯本公第二二四号貴信ノ次第モアリ此際大勢
ニ順應シ強ヒテ当方ヨリ疑義ヲ差挿マザルコトトセル次
第ナリ。唯自衛權ニ基ク行爲ハ改正案ニヨルモ当然認メ
ラレ居ルベキコト從來ノ十一人委員會及第一委員會ニ於
ケル討議ニ照スモ署明カナルモ本邦トシテハ此矣ヲ特ニ
重要視スルモノニシテ常ニ之ヲ明瞭ナラシメンコトヲ欲
シタル次第ナリ

二、第一委員會ノ第十三条第四項及第十五条第六項ニ對ス
ル改正案中ノ「聯盟國ハ判決又ハ勸告ニ服セザル國ノ抵
抗ニ何等ノ支持ヲ与ヘザルコトヲ約ス」ル旨ノ規定ハ十
一人委員會案ノ「判決ニ服スル聯盟國ニ對シ何等ノ行動
ヲ執ラザルコトヲ約ス」ル旨ノ規定ト全様其意義範圍等

依然明瞭ナラザル嫌アルモ此際強ヒテ当方ヨリ之ガ修正ヲ求メズ唯他国ヨリ之ニ代ルベキ提案等アルニ於テハ一応之ヲ審議スルコト可ナルベシ

三、第十五条第六項ニ對スル十一人委員会案ハ聯盟理事会勸告ノ性質ニ重大ナル變更ヲ加ヘ理事会ヲ變ジテ仲裁機關タラシメ其行動ニ融通性ヲ失ハシムルノ結果ヲ招来スベク俄ニ之ニ賛シ難ク第一委員会案ヲ以テ可トスル次第ハ客年八月末電報ヲ以テ申進ノ通りナリ。

四、其他ノ条項ニ関シテハ別段ノ意見ナシ

尚帝國政府ハ主義上第一委員会改正案ニ賛意ヲ表シタリト虽モ右ハ来ルベキ總會ニ於ケル討議ノ模様ニ鑑ミ帝國政府ノ執ルベキ態度ヲ「コミット」スルモノニアラザルコト申ス迄モナキ儀ナリ。

116 昭和7年2月27日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

リトアニアによるメーメル行政府長官罷免問題
題を独国が連盟理事会に提訴について

律問題ナルヲ以テ之ニ付國際司法裁判所ノ勸告の意見ヲ求ムルヲ適當ト認ムルモ
多數決ニ依リ勸告の意見ヲ求ムルコトハ之ヲ躊躇スルニ付
「リツアニア」ハ勸告の意見ヲ求ムルコトニ反對ナリ)此
點ニ基キ該條約署名國カ國際司法裁判所ニ訴ヘ得ル權利アルコトヲ指摘スルニ止メントスト結論セル處該報告ハ其儘採擇セラレタリ

二、然ルニ在佛獨逸大使館書記官ハ巴里事務局ヲ訪問シ局員ニ對シ獨逸政府ハ日本カ右條約上ノ權利ニ基キ司法裁判所ニ本件ヲ提起センコトヲ希望スル旨ヲ申述ヘル所アリ又他方當地英國代表部「カドーガン」ヨリ本官宛書簡(二十六日附)ヲ以テ英國政府ハ本件ニ付「リツアニア」政府ハ「メーメル」基礎法ニ違反セルモノト認メラルルヲ以テ「メーメル」條約第一七條第二項ニ基キ行動スル積リニテ他ノ三署名國モ行動ヲ共ニセラレ度ク日本政府ノ意向至急承知シ度キ旨政府ノ訓令ニ依リ申越シタリ

三、本件ニ關シテハ從來通り他ノ署名國ト同一ノ步調ヲ取ル外無之從テ佛伊兩國政府ノ内意ヲモ確カメタル上措置スル外無之モノト存セラルルニ付佛伊ノ態度ニ付テハ追テ申

第一五九號

獨逸發閣下宛電報第二七號ニ關シ

一、本件ニ關シテハ獨逸政府ハ「リツアニア」政府カ「メイメル」行政府長官 Boettcher ヲ罷免シタルハ「メイメル」地域基礎法第十七條第二項違反ナリトシテ「メイメル」條約第十七條第一項ニ依リ理事會ニ訴フル所アリ二月十三日ノ會議ニ於テ獨逸理事會及「リツアニア」外務大臣ノ意見陳述アリタル處「リツアニア」側ニ於テハ Boettcher ヲ罷免シタルハ同人カ恣ニ伯林ニ出張シ獨逸政府ト交渉ヲ爲シタル事實ニ基クモノニシテ「リツアニア」政府ニ於テハ正當ナル權限ヲ行使シタルニ過キス從テ基礎法ノ違反ニ非スト主張シタルカ結局報告者「ノールエー」理事會ニ三法律家ト協議ノ上報告ヲ作製スルコトナリ二十日ノ理事會ニ提出セラレタルカ該報告ハ本件ヨリ生シタル事態ヲ回復スル爲「リツアニア」政府ノ努力ヲ求ムルト同時ニ本件ノ如キ場合ニ於テ「リツアニア」政府カ基礎法ニ違反スルコト無クシテ行政府長官ヲ罷免シ得ルヤ否ヤノ問題ハ法

ジュネーヴ 2月27日後発
本 省 2月28日前着

進ムヘキモ右不取敢

英、佛、獨、伊ニ轉電セリ

117 昭和7年3月3日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

メーメル問題を常設國際司法裁判所に提訴する
英國提案への対応につき請訓

第二〇三號(至急)

往電第一五九號ニ關シ

ジュネーヴ 3月3日後発
本 省 3月4日前着

佛伊モ既ニ英國ノ提議ニ賛意ヲ表シ我方ノ回答アリ次第今後ノ措置振ニ付當地ニ於テ下相談ヲ開始シタキニ付一兩日中ニ回答アリタキ旨英國側ヨリ申入アリ然ルニ本件ニ關シテハ我方トシテハ從來通り「メーメル」條約他ノ署名國ト歩調ヲ一ニスル外無之ト存スルニ付英國ノ提議ニ賛意ヲ表スルコト然ルヘク何分ノ儀折返し御回訓ヲ請フ
英、佛、獨、伊ヘ轉電セリ

118 昭和7年3月5日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

メーメル問題につき大勢順応方訓令

本省 3月5日午後1時30分発

第九六號

貴電第一五九号ニ関シ大勢順應差支無シ

~~~~~

119 昭和7年3月30日 在仏国長岡大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

メーメル問題の常設国際司法裁判所への付託

請求案仏国外務省より送付について

別電 三月三十日発在仏国長岡大使より芳沢外務大

臣宛第一九五号

右付託事項

パリ 3月30日後発  
本省 3月31日前着

第一九四號

壽府澤田局長發貴大臣宛電報第二九二號ニ關シ

行ハルヘク又同行政府ハ新國籍法規ヲ施行シテ「リツアニア」系分子ヲ多數歸化セシメントシツツアル等ノ事實ヲ擧ケ本件ヲ國際司法裁判所ニ附議シ並ニ「メーメル」地方ノ戒嚴狀態ノ終止選舉自由ノ確保及「リツアニア」系分子ノ不法ナル歸化ノ防遏ヲ計ルニ必要ナル措置ヲ帝國政府ニ於テ執ランコトヲ希望スル」旨ノ廿四日附「エードメモアール」ヲ手交シ本件ハ獨逸輿論ノ關係モアリ獨逸政府ノ最モ重キヲ置ク所ナリト述ヘ尙獨逸政府ハ廿四日同様ノ申出ヲ英佛伊三國ニ對シテモ爲シタル旨附言セルニ付栗山ヨリ本件ハ專ラ聯盟帝國事務局ノ方ニテ取扱居ルニ付同事務局ヨリ日本政府ニ移牒スルコトナルヘキ旨答ヘ置キタル由ナルカ右申出ニ關シテハ「コブノ」ニ我代表者ナキ關係モアリ若シ三國側ニ於テ同地ニテ何等共同ノ措置ニ出ツルカ如キ場合ニハ帝國政府モ之ニ參加スヘシトノ程度ニテ回答スルコト然ルヘキヤニ存スルモ之亦何分ノ儀同電ヲ請フ公文及「エードメモアール」等轉電暗送先ニ共ニ郵送ス別電ト共ニ蘭ニ轉電シ英、佛、伊、聯盟ニ暗送セリ

(別電)

當國外務省ヨリ廿四日附公文ヲ以テ在「コブノ」三國代表者ヨリ「リツアニア」國政府ニ抗議書ヲ提出シタルニ拘ラス代議院解散セラレタルニ付今ヤ壽府ニ於ケル話合通り日英佛伊政府ヨリ本件ヲ國際裁判所ニ附託スルヨリ外ニ方法ナキヲ以テ別添同裁判所ニ對シ附託請求案(裁判所ノ判決ヲ求ムヘキ六點ノミ別電第一九五號ヲ以テ電報ス)ヲ至急日本政府ニ轉達シ同政府カ右案ニ贊同セラルル場合在蘭代表者ニ對シ英佛伊代表者ト共ニ附託請求ニ署名方訓令ヲ發セラルルコトニ同意ナルヘキヤ承知シ度キ旨申越セル處右ハ在蘭公使宛貴電第五號ノ次第モアリ同意ノ旨回答シ差支ナキコト存スルモ何分ノ儀御同電ヲ請フ尙別電中ノSimatisナル者ハ「リツアニア」系ノ人物ニシテ「メーメル」ノ知事カ同人ヲ行政府ノ長官ニ任命シ同行政府ノ信任ヲ代議院ニ問ヒタルニ對シ同院カ「リツアニア」派ヲ除キ)不信任ノ決議ヲ爲シタル爲知事ハ同院ヲ解散シタル次第ナリ此點ニ關シテハ廿五日在巴獨逸大使館參事官栗山ヲ來訪シ「右解散ノ事情ヲ述ヘ代議院多數黨ノ支持ヲ受ケサル右行政府ノ任命及代議院ノ解散ヲ不當トシ尙總選舉ハ右行政府ノ手ニ依リ言論集會ノ自由ヲ禁遏スル戒嚴令下ニ

パリ 3月30日後発  
本省 3月31日後着

No. 195.

1. Si gouverneur territoire Memel a droit de révoquer Président Directoire;
2. Dans cas affirmative, si ce droit n'existe que sous certaines conditions ou dans certaines circonstances et quelles sont ces conditions ou circonstances;
3. Dans cas où droit de révoquer Président Directoire serait reconnu, si révocation de celui-ci entraîne cessation fonctions autre membre directoire;
4. Dans cas où droit de révoquer Président Directoire n'existerait que sous certaines conditions ou dans certaines circonstances, si révocation de M. Boettcher effectuée 6 février 1932, est régulière dans circonstances où elle s'est produite;
5. Si, dans circonstances où elle s'est produite, constitution directoire présidé par M. Simatis, est régulière;

6. Si dissolution Chambre Représentants qui a été effectuée 22 mars 1932 par gouverneur territoire Memél, alors que directeur présidé par M. Simaitis n'avait pas obtenu confiance représentant est régulier.

Nagaoka.

120 昭和7年4月4日 芳沢外務大臣より  
在仏国長岡大使宛(電報)

メーメル問題の常設国際司法裁判所への付託  
請求案に賛成方訓令

本省 4月4日後4時50分発

第一〇八號

貴電第一九四号ニ関シ

何レモ貴見ノ通り取計ハレ差支ナシ

和蘭ニ轉電シ英、獨、伊、聯盟ニ暗送アリタシ

121 昭和7年4月11日 在オランダ松永(直吉)公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

メーメル問題の付託請求書英、仏、伊公使と

ニ付御考慮置キラ請フ  
聯盟、佛ニ轉電シ、英、獨、伊ニ暗送セリ

122 昭和7年4月11日 在仏国長岡大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

メーメル問題に関する独国の改善措置申出に  
つき仏国外務省欧州局長との会談について

パリ 4月11日後発  
本省 4月12日前着

第二三九號

往電第二二三號ニ關シ

九日求メニ依リ栗山ヲ外務省歐洲局長ノ許ニ遣ハシタル處  
同局長ヨリ國際司法裁判所規定第四一條ニ基ク改善措置ノ  
件ニ關シ我方ノ意嚮問合セアリタルニ付栗山ハ帝國政府ト  
シテハ佛國政府提案ニ基キ「メーメル」事件ヲ海牙ニ附托  
スルニ異存無キハ八日附公文ヲ以テ回答セル通ナルモ「コ  
ブノー」ニハ我代表者モ無ク現地ノ事態ニ付判斷ノ材料ニ  
乏シキ關係モアリ裁判所カ自ラ改善措置ヲ決定スル如キ場  
合ハ格別帝國政府ヨリ他國政府ト共ニ進ンテ之ヲ同裁判所

共に常設国際司法裁判所に提出について

ハーグ 4月11日後発  
本省 4月12日前着

第三三號

貴電第五號ニ關シ

一、十一日在當地英、佛、伊三國公使及本使本件附託請求  
書(英、佛文ニテ併記ス佛文ハ三月二十六日附在佛大使  
發閣下宛公第一九八號附屬原案通り)ニ署名ヲ了シ同日  
附ヲ以テ國際司法裁判所ニ提出セリ

二、提出ト同時ニ各國別ニ代理人ノ任命及將來提出スヘキ  
申述書ニ於テ自國申立ノ陳述ヲ爲スヘキ旨ヲ裁判所書記  
宛ニ通知シ度キ旨豫メ英、佛公使ヨリ申出アリタルニ付  
本使モ右ニ取計ヒタリ而シテ代理人ニ關シテハ佛發閣下  
宛往電第二二三號末段ノ次第モアリ代理人ノ正式任命  
アル迄本使ニ於テ假ニ代理人ノ事務ヲ執ルヘキ旨記載シ置  
キタルニ付御了承相成度シ

三、英、伊ハ在當地各公使ヲ假代理人ニ、佛ハ外務省法律  
顧問「バドヴァン」ヲ正式代理人ニ任命シタル處帝國政  
府ニ於テモ將來代理人任命ノ必要アルヘシト存セラルル

ニ請求スルカ如キハ差控ヘ度キ意嚮ナリ從テ四月四日附佛  
國外務省公文ニハ回答ヲ爲ササルコト承認アリ度シ尙本  
件ハ日英佛伊及「リツアニア」間ノ問題ニシテ關係無キ建  
前ナルヲ以テ帝國政府トシテハ獨逸政府ノ申出ニ對シ回答  
ヲ爲ササル可シト述ヘタル處同局長ハ日本側ハ他三國程利  
害モ緊密ナラサルコトニモアリ右様「リザーブ」シタル態  
度ニ出テラルルコトモ了解セリ然シ他ノ國カ格別ニ請求若  
ハ「サジェスト」スルコトニハ異存無キヤト尋ネタルニ付  
右ハ我方トシテ異存無カル可シト答ヘタルカ同局長ハ佛國  
政府モ獨逸政府ノ申出ニ對シテハ回答ヲ爲ササルヘシト述  
ヘタル趣ナリ本件改善措置問題殊ニ戒嚴令下ニ總選舉ヲ行  
フヲ不當ナリトスル獨逸側ノ主張ニ付テハ滿洲ノ新事態ト  
モ比較シ萬々間接ニモ關係無カル可シト思考セラルルモ爲  
念右様ノ回答ヲ爲シ置キタル次第ナリ就テハ在本邦獨逸大  
使ヨリ本件ニ付何等申出アリタル際ハ右御含ニテ然ル可ク  
御取計ヒ相成ル様致度シ

聯盟、蘭ニ轉電シ英、獨、伊ニ暗送セリ

編注 「独乙ニハ直接」との書込みあり。

昭和7年4月16日 在ベルー来栖(三郎)公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

ボリビア・パラグアイ国境紛争(チャコ紛争)に關し日・中問題が引合いに出される場合の対応につき説明方意見具申

リマ 4月16日後発  
本省 4月17日後着

# 第一七號

最近當國駐劄「パラグアイ」公使ハ米國大使ニ對シ「チャコ」國境ニ於ケル「ボリビア」軍結集ノ情報ヲ傳ヘ「ボリビア」ハ要スルニ日本ヲ眞似ントスルモノナリト内話シ同大使ハ之ヲ國務省ニ電報シタル趣ナルカ(米國大使館參事官内話)今後「チャコ」問題ノ成行如何ニ依リテハ滿洲上海問題ハ當方面ニ於テ兎角引合ニ出サル可キ形勢ナルノミナラス聯盟總會等ニ於ケル小國側純理論中ニハ「ラテンアメリカ」諸國ノ主張依然相當有力ナルヘキヤニ察セラルルニ付テハ適當ノ機會ニ於テ曩ニ繫爭約五十年且多年智秘兩國ノ外交關係ヲ斷絶セシメ居リタル「タクナアフリカ」問題カ結局直接交渉ニ依リ解決シ今又「チャコ」問題カ「ワシ

ントン」ニ於テ解決セラレツツアル事例ヲ指摘シ米大陸ノ問題カ常ニ米大陸限リニテ解決セラレントスル傾向アルハ要スルニ聯盟カ平和維持ノ根本精神ニ合致スル限リ個々ノ紛争處理ニ關シテハナルヘク各大陸又ハ地方ニ於ケル傳統又ハ特殊事情等尊重ノ精神ヲ有スルニ出ツルモノト解ス可ク規約第二一條ノ趣旨モ畢竟之ニ基クモノト解釋スル旨ヲ主張セラレ日支問題ニ關シテモ解決根本原則ニ關スル決議等ハ兎ニ角特殊複雜ナル地方の事情考慮ノ要アル協定ノ内容迄聯盟トシテ立入ラントスルカ如キハ上述ノ精神ニ背馳スルモノナル所以ヲ力説セラレ彼等ノ反省ヲ求メ旁々此際帝國ノ立場ヲ明ニシ置カルル事當方面ノ情勢上緊切ナルヤニ思考セラル

昭和7年4月30日 在独国外小幡大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

メーメル問題に對する列國措置につき独国外務省東方局長より謝意表明について

ベルリン 4月30日後発  
本省 5月1日前着

## 第六二號

廿九日外務省東方局長ハ求メニ應ジ往訪ノ七田ニ對シ先ツ上海ノ凶變ニ付見舞ヲ述ヘタル後「メーメル」條約署名國カ今回「リスアニア」政府ニ對シ執ラレタル措置ニ對スル獨逸政府ノ謝意傳達方ヲ依頼セルカ其際同局長ハ獨逸側ノ得タル情報ニ依レハ右列強ノ御斡旋ニ拘ハラヌ獨逸系「メーメル」人ノ歸化權取消選舉集會ノ解散等極端ナル選舉干渉行ハレ居ル模様ナレハ「リ」國側カ果シテ條約遵守ノ誠意ヲ有スルヤ頗ル懸念シ居ル次第ナリト語レリ  
英、佛、伊、聯盟ヘ轉電シ蘭ヘ暗送セリ

昭和7年5月22日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟事務局幹部改造問題などに関する理事会の討議状況について

ジュネーヴ 発  
本省 5月22日前着

第四七九號  
長岡理事ヨリ

## 二十一日理事會開會

一、貴電第一六九號聯盟經費節減問題英國提案ニ付テハ監督委員會(必要ニ應ジ二、三ノ専門家ヲ附ス)ヲシテ不取敢事務局減員減俸及一層嚴密ナル財政監督等ノ事項ニ付調査ヲ爲シ次回總會ニ報告セシムルコトトスルト同時ニ聯盟事業ノ全般ニ亘リ節減ノ余地有リヤ否ヤヲ攻究スルハ現下ノ急務ナルコトニ付總會ノ注意ヲ喚起スルコトナレリ(右ノ結果次回總會ニ於テハ曩ニ十三人委員會ノ攻究シタル事務次長廢止等ノ組織問題及聯盟ノ活動全般ニ亘リ専ラ經費節減ノ見地ヨリ重要ナル討議ヲ見ルヘシ<sup>○欠</sup>)

二、往電第一六號「ドラモンド」辭職問題ニ付テハ二十日ノ秘密會ニ於テ「ド」ヨリ愈々明年三月辭任シタシト申出テ之ニ對シ本使カ貴電第一六號ノ趣旨ヲ傳ヘタル外留任ヲ希望スルモノ多カリシモ結局辭意ヲ翻スニ至ラス尤モ後任問題ハ前記經費節減ノ問題トモ密接ノ關係アルヲ以テ次回理事會迄之ヲ議セス次回理事會ニテ協議ノ上本年中ニ總會ニ附議スルコトナレリ

在歐各大使ヘ暗送セリ

126 昭和7年6月24日 在オランダ松永公使より  
齋藤外務大臣宛(電報)

メーメル問題訴訟弁論につき報告

ハーフ 6月24日後発  
本省 6月25日前着  
第二二號

「メーメル」問題辯論ハ六月八日より開始セラレタルカ  
「リスアニア」側ヨリ答辯書ノ提出ニ際シ原告側申立第五  
項及第六項ニ關シ裁判所權限ニ對スル豫備異議ヲ提出シタ  
ル結果辯論ハ先ツ第一項ヨリ第四項迄ノ諸點ニ付行フト共  
ニ之ト併行シテ豫備異議ニ關スル辯論ヲ行ヒ十八日終了本  
二十四日豫備異議ニ對スル判決アリ裁判所ハ之ヲ棄却スル  
ト共ニ第五項及第六項ニ對スル「リ」側答辯書ヲ七月九日  
迄ニ提出スヘキ旨ヲ命シタルニ依リ本件訴訟辯論ハ右提出  
ヲ俟テ續行ノ豫定ナリ

右辯論ニ際シ原告側ハ申立第一項ニ關シ「メーメル」知事  
ハ行政府長官罷免ノ權限無ク右是認セラルル場合第二項乃  
至第四項ノ問題ハ意義ヲ失フトノ建前ヲ以テ主トシテ第一  
項ニ付辯論ヲ行ヒ英佛伊代理人ヨリ「メーメル」條約及基

礎法解釋上四國一致ノ意見トシテ陳述スル所アリ本使ヨリ  
ハ簡單ニ他三國代理人ト同意見ナル旨述ヘ置キタリ  
佛、聯盟ニ轉電シ英、伊、獨ニ郵送セリ

127 昭和7年6月24日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局局長より  
齋藤外務大臣宛(電報)

トルコの連盟加入に關シ招請国に列すべく要  
請について

ジュネーヴ 6月24日後発  
本省 6月25日後着

第五一一號

機密聯本公第一〇一號往信ニ關シ

長岡代表ヨリ

二十三日事務局員佐藤大使ヲ來訪シ土耳其ハ愈聯盟加入方  
ヲ決定シ二十二日在瑞西公使ヨリ事務總長ニ對シ聯盟ヨリ  
招請ヲ受ケ度キ旨申出テタルカ聯盟ニ於テモ四月十三日軍  
縮一般委員會ニ於ケル土耳其古外相ノ演說ヲ以テ聯盟加入ノ  
要求アリタルモノト認メ早速同國加入手續ヲ準備シタリ就  
テハ本件ノ口ヲ切りタル「マダリアガ」ニ於テ斡旋シ招請

國トシテ約二十ヶ國ヲ決定、二十八日ノ臨時總會ニ右招請

狀ヲ提出、次テ二日後ニ總會ヲ開キテ本件加入招請方ヲ決  
定、土耳其ヨリノ回答ヲ待チテ更ニ總會ヲ開キ正式ニ加入  
決議ヲ爲スコトニ定メタル旨説明シタル上(前記諸文書案  
ヲ手交セルカ土耳其古同答案中ニハ冒頭往信末段ノ如ク獨逸  
カ加入當時引用セル一九二五年十二月ノ歐洲列國「ノー  
ト」ノ末尾ノ(一語脱) *rappeler* シ居レリ委細公信) 就  
テハ招請國中ニ日本ノ參加ヲ得度シト述ヘタリ佐藤大使ハ  
右ノ次第ハ直ニ巴里長岡大使ニ通スヘキモ不取敢 *Japon*  
*provisoire* トシテ招請國中ニ列シ置カルル様致シ度シト答  
ヘ置キタル趣ナリ  
就テハ他ノ常任理事國カ全部招請國タル場合我方モ之ニ列  
スルコト然ルヘシト認ムルニ付左様取計フヘク右御承知置  
相成度シ  
在歐各大使ニ暗送セリ

128 昭和7年6月25日 在ニュー・ヨーク堀内總領事より  
齋藤外務大臣宛

不戰條約と連盟規約との適合問題に關シ規約

第十六条は削除すべきとの新聞論調について

普通第二一六號

(7月18日接受)

昭和七年六月二十五日

在紐育

總領事 堀内 謙介〔印〕

外務大臣子爵 齋藤 實殿

聯盟規約第十六條削除ニ關スル新聞論調報告ノ件

聯盟規約及不戰條約ノ調節又ハ補強等ニ關スル當國各方面  
ノ意見ハ其都度及報告置キタル通ナル處五月二十八日「ク  
リスチャン・サイエンス・モニター」紙ハ別紙寫<sup>省略</sup>ノ通其社  
説ニ於テ聯盟規約第十六條廃棄ヲ提唱シ「過去十年ノ歴史  
ヲ顧ルニ聯盟ヲシテ實力ヲ有セシメンカ為メニ考案セラレ  
タル規約第十六條ノ制裁規定ノ存在ハ終ニ米國ノ不参加ヲ  
招来シ英國亦之カ為ニ全幅ノ援助ヲ與フルヲ躊躇シ聯盟ノ  
為ニ面白カラサル結果ヲ生シ居レル處今次日支事件ニ關シ  
テハ日本ハ幾回トナク理事會或ハ總會ノ決議及勸告ヲ無視  
シ各種平和條約ニ違反シテ武力解決ニ訴ヘタルヲ以テ右制  
裁條項適用ノ好事例發生セルニ不拘列國ハ自己ノ犠牲ニ於  
テ兵力使用ヲ餘儀ナクセラルルヲ慮レ其責任ヲ回避シ明白

ニ第十六條ヲ適用スル實力及意志ヲ有セサルコトヲ示シタルノミナラス同條ノ存在スルカ為ニ列國ハ事件当初ヨリ卒直ニ問題ニ直面スルヲ欲セス其結果正邪ヲ判断シテ責任ヲ明ニシ輿論ヲ喚起シテ問題ノ平和的解決ヲ計ルヘキ聯盟ノ機能ハ著シク妨ケラレタリ斯ノ如ク第十六條ノ制裁ハ現實ノ國際情勢ト合致セス却テ聯盟ノ實力發揮ヲ妨ケタルヲ以テ同條ヲ削除シ今後聯盟ハ其規約遂行ノ為ニハ明白且完全ニ強力ニ依頼セザルコトトナスヘシ」ト論シタリ右ハ五月二十一日附普通第一七四號拙信報告四月十六日 American Academy of Political and Social Science 會合ニ於ケル「ヂェローム・デイ・グリーン」演説ノ趣旨ニ一歩ヲ進メ其廃棄ヲ高唱シ居ル矣ニ於テ時節柄注意スヘキ論說ナリト思考セラル

右何等御参考迄此段報告申進ス

本信寫送付先 在米大使

129 昭和7年7月12日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛

連盟理事選舉制度研究委員会における審議状

客年總會ニ本問題ヲ提議シタル英國代表「セシル」卿カ本日ノ委員會ニ出席シ居ラサルコトノ二點ヲ指摘シテ本問題ノ審議ヲ後日ニ譲ランコトヲ提案シタルカ

葡萄牙代表ハ漫然問題ノ審議ヲ延期スルハ面白カラストテ前記延期説ニ反對シ只聯盟國ノ意向ヲ照會スル爲相當ノ期間討議ノ開始ヲ延期スルニハ反對スルモノニ非スト述ヘ佛國代表亦單純ナル延期説ニハ賛成シ難キモ審議延期ノ期間ヲ利用シ本委員會ニ代表セラレ居ル各國政府ニ對シ書面ヲ以テ本件ニ關スル意見ノ表示ヲ求ムルコトニハ異議ナシト説ク

右ニ對シ「コロンビア」代表ハ本問題ニ關スル意見ノ表示ハ當ニ本委員會ニ代表セラレ居ル國ノ政府ニノミ之ヲ求ムルヲ以テ足レリトセス廣ク聯盟國全体ニ諮ル要アリト存セラル、處墨西哥、土耳其、「アルゼンチン」等ノ現在ニ於ケル對聯盟關係等ニモ鑑ミ今遽ニ之ヲ行フハ適當ニ非ストテ延期説ヲ固持シタルカ

委員會ハ結局白國代表ノ提議ヲ容レ期限付延期説ヲ採用スルニ決シタリ即チ事務總長ヨリ聯盟國政府ニ對シ一定ノ回答期限ヲ附シテ本問題ニ關スル意見ノ表示ヲ求ムル書面ヲ

況について

普通聯本公第二二七號 (8月8日接受)

昭和七年七月十二日

在壽府

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

現行理事會選舉制度改正問題研究委員會議事報告ノ件曩ニ電報ヲ以テ申進置キタル現行理事會選舉制度改正問題研究委員會ハ昭和七年七月四日ニ至リ第一回會議ヲ壽府ニ開催スルコト、ナリ別紙ノ如キ各國代表出席ノ上討議ヲ行ヒタルカ結局事務總長ヨリ聯盟國政府ニ對シ本問題ニ關スル意見ノ表示ヲ求ムル書面ヲ發シ其回答ヲ待チ本委員會ヲ再開更ニ審議ヲ重ナル事ニ決定シタルカ右會議ノ議事經過概略左ノ如シ

委員會ハ劈頭伊國代表並ニ白國代表ヲ夫々議長及副議長ニ選任ノ上本問題ニ關スル審議ヲ開始シタリ「コロンビア」代表ハ(イ)理事會選舉制度改正問題ノ極メテ重要ニシテ之カ研究ニハ充分ナル準備ヲ必要トシ早急ニ本問題ノ審議ヲ初ムルハ徒ニ問題ヲ紛糾セシムルニ過キサルヘキコト並ニ(ロ)

発シ右ニ對スル回答ヲ待チテ再ヒ本委員會ヲ開キ問題ノ實質ニ付審議ヲナスヘク右期限ハ委員會議長及事務總長ニ於テ協議決定スルコト、ナレリ

前記事務總長ノ書翰ハ接手次第追送スヘキモ右不取敢報告ス

130 昭和7年7月30日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛

連盟第十三回通常總會に対する対策につき請訓

機密聯本公第一三七號 (9月19日接受)

昭和七年七月三十日

在巴里

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

第十三回聯盟總會対策ニ關スル件

第十三回聯盟總會假議題ハ曩ニ送付シ置キタル次第ナル処本官過般事務總長ト会谈ノ機會ニ於テ同總長ハ本官ヨリノ質問ニ對シ本年總會ハ軍縮會議継続中ノコトニモアリ旁々第三委員會ハ結局之ヲ開催スル必要ナク第一委員會關係事

シ置度シ

(三)前記(一)ニ關聯シ各種保護手段中特ニ輸入「クォータ」制度ハ佛国其他歐洲諸国ニ於テ近時盛ニ採用セラレ居ル処本制度カ最惠條款ト牴觸スルヤ否ヤニ付テハ聯盟經濟委員會ニ於テハ未タ決定ヲ見ルニ至ラス唯一般說ハ此ノ種制度ハ目下ノ經濟危機ニ對スル例外的暫行措置トシテ暫ク之ヲ容認スルコト止ムヲ得サルヘシトノ見解ニ傾キ居ル処本制度ハ本邦輸出貿易ニモ直接影響多キモノト被存ニ付本制度ノ主義及適用ノ問題ニ付本邦側ヨリ申出スヘキ卓特ニ本制度ノ為本邦貿易カ不便ヲ蒙リ居ル実例等アラハ可成詳細ニ御回示相煩度シ

(四)為替管理制度ニ付テハ右ハ國際通商上面白カラサル影響ヲ与フルモ各国共金融上ノ恐慌ニ襲ハレ居ル際ノコト、テ一般ニ之ヲ排斥シ難シトノ見解多キ処本制度ヲ施行スルコトト成レル關係モ有之ニ付萬一本制度ニ付各方面ヨリ討議ニテモ起リタル際ニハ當方トシテハ本制度ハ財界ノ危機ニ對スル特別ナル例外的措置ニ過キス又右ハ投機其ノ他不自然ナル資金ノ移動ヲ管理スルコトヲ目的トスルモノニシテ正常ナル通商ヲ阻碍スルモノニ非スト

務モ差シタル問題無カルヘク第二、第五、第六委員會關係事務ニテ難多ノモノアルモ之モ大体十日足ラズニテ終了セシメ度キ積リナリ只第四委員會關係ノ聯盟經費節減問題ニ付テハ相當議論紛糾スヘク同委員會ハ長ク継続スルコト、予想シ居レリ又所謂一般討議モ各国共既ニ軍縮會議等ニテ其ノ意見ヲ明ニスル機會ヲ有シタル次第ナルニ付事務局側トシテハ本年總會ニ於テハ之ヲ止メ貰ヒ度キ希望ナルモ各国代表トシテハ何カノ希望モ可有之ヲ全廢スルコトハ困難ナランモ成ル可ク簡單ニ終ラシメ度キ意嚮ナル旨内話シタル次第モアリ旁々本年通例總會ハ予想セサル突發事件無キ限り比較的簡單ニ終了スルコト、予想セラレ居ルモ差シ當リ總會ノ問題タルヘキ左記諸點ニ付予メ御了解ヲ得置キ度シ

#### 一、非常任理事改選問題

本年總會ニ於テハ波蘭「ユーゴスラヴィア」及秘露理事ノ後任ヲ選舉スル要アル処本件ハ大勢ニ順應スルコト、致シ度シ

#### 二、經濟問題(第二委員會)

經濟問題ニ付テハ既ニ電報ヲ以テ報告セル國際經濟財政

會議ヲ控ヘタル際トテ聯盟總會ニ於テハ立入りタル討議モ無之ト被存ルモ爲念別記ノ點ニ付何分ノ御垂示相煩度

(一)勞山決議ニ基ク國際經濟財政會議ニ付テハ未タ輪廓サヘ明確ナラサルモ本會議ニ對スル帝國ノ態度希望等ニ關シ當方ノ心得フヘキ事項殊ニ若シ總會ノ一般討議ニ於テ闡明スヘキ事項等モ有之ヲハ御回示相仰度シ殊ニ既報ノ通來ルヘキ總會中開催セラルヘキ理事會委員會ニ於テハ愈々實質ニ入り本會議ノ準備ヲ進ムルコト、可成ニ付同委員會本邦代表者ニ於テハ本會議ニ對スル政府ノ御意向承知シ之ニ臨ムノ要アル次第ナリ(本件ニ關シテハ別途送付ノ第六十七回理事會報告御參照アリ度シ)

(二)國際通商政策ニ付テハ本邦ハ從來ヨリ最惠國待遇ヲ基礎トスル自由通商主義ヲ主張シ來レル処近時經濟不況ノ為各國共各種ノ保護手段ヲ講シ右措置ト最惠國條款トノ關係ニ付テ紛議アルコトハ累次經濟委員會報告等ニ依リ御承知ノ通ナリ本邦トシテハ從來ノ立場ヨリセハ可成此ノ種ノ例外的保護措置ヲ排シ最惠國待遇ノ確立履行ヲ主張スルコト可然ト存セラル、モ右ハ本邦今後ノ方針ニ關係深キ點ト被存ニ付此ノ點ニ關シ予メ政府ノ御意向承知

ノ趣旨ニテ之ニ應酬シ可然ト被存ル処此ノ點ニ付テハ何等心得置ク點アラハ御回示相煩度シ

(五)捕鯨條約署名延期方ニ關シテハ累次ノ貴信及貴電ヲ以テ御回示ノ次第アリタル処本邦ト關係深キ太平洋沿岸諸國中濠洲、加奈陀、米國ハ何レモ署名ヲ了シ居ルニ付(總會準備書類 A.6.1.1932 六一頁參照)從來御回示ノ點以外何等説明スヘキ事項アラハ御垂示ヲ乞フ

(六)尚本項冒頭申進ノ通來ル總會ニ於テハ經濟問題ノ討議ハ目下ノ処差シタルコトモ可無之ト被存居ルニ付前記諸點ニシテ特ニ討議ノ問題トナラサル限リ當方ヨリ進ンテ問題ヲ提起スル意向ハ無之モ萬一ノ場合ニ對スル為念何分ノ儀御垂示相仰置度シ

#### 三、聯盟經費節減問題(第四委員會)

本件ニ關シテハ七月九日附府發往信機密聯本公第二二六号ヲ以テ當方意見稟申シ置キタルヲ以テ當方ノ心得フヘキ點アラハ成ル可ク早日ニ御回示相成度シ

#### 四、阿片問題(第五委員會)

阿片問題ニ關シテハ麻葉製造制限條約批准ノ件ニ關シ七月三十日附往信普通聯本公第一三一号ヲ以テ申進ノ件ニ

### 三 國際連盟における諸問題

付御回示ヲ得度シ  
五、「ドラモンド」後任問題

本問題ハ本年総会中ノ理事会ニ於テ当然問題トナルヘキ  
次第ナルカ本日迄ノ処諸説併ヒ行ハレ特ニ纏レル処ナキ  
模様ニテ結局本件ハ國際ニナラスンハ纏リタル提案モ出  
テサルヘシト被察依テ本件ニ付何等経伺スルコトアラハ  
必要ニ應シ電稟御指示ヲ仰クコト、スヘシ

右諸矣ニ関シ九月二十六日開催ノ総会ニ間ニ合フ様成ル可  
ク早目ニ御垂示相願度尙其ノ他ノ事項ニ関シ同總會ニ臨ム  
ニ当リ当方ノ心得置クコトアラハ右併セテ御訓示ヲ乞フ

131 昭和7年8月4日 在米出淵大使より  
内田外務大臣宛(電報)

チャコ紛争に關シ米州一九九力國代表が平和的  
解決の共同通牒發出を決定について

ワシントン 8月4日後發  
本省 8月5日前着

第四〇六號

「チャコ」問題ニ關シテハ過般來華府當局等ニ於テ斡旋シ

務總長より要請について

付記 昭和八年一月九日發内田外務大臣より在ジ

ユネーヴ沢田連盟事務局局長宛電報第一三三號

連盟理事選挙制度改正問題に対する意見

普通聯本公第一四六號 (9月5日接受)

昭和七年八月四日

在巴里

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

現行理事会選挙制度改正問題研究委員會ニ關スル件

本件ニ関シテハ本年七月十二日附普通聯本公第二二七號拙  
信ヲ以テ報告致シ置キタル処今般聯盟事務局總長ヨリ貴大臣  
宛別添書翰(C.L.100.1932 V)ノ送付アリ前頭拙信ヲ以テ  
報告ノ委員會決定ニ依ル趣ヲ以テ本問題ニ対スル帝國政府  
ノ見解承知シ度旨並ニ本問題カ葡萄牙國ノ提議ニ基キ客年  
總會第一委員會ニ於テ審議セラレタル旨申越スト共ニ本委  
員會次回會合ノ期日ハ未タ確定シ居ラサルモ帝國政府ニ於  
テ何等意見モアラハ出来得ル限り速ニ通報ニ接シ度旨通告  
シ来リタルニ付テハ委曲前記拙信ヲ以テ送付ノ報告書並ニ

居ル模様ナリシカ解決ニ至ラス遂ニ「ボリヴィヤ」「パラ  
ガイ」兩國共ニ動員ヲ爲スニ至リタルカ三日兩國以外ノ全  
米大陸十九ヶ國代表者(米國ヲ含ム)國務省ニ參集シテ右  
兩國ニ對シ要旨左ノ如キ共同通牒ヲ發スルコトニ決定セリ  
米大陸諸國ハ從來紛争ヲ平和的ニ解決スルノ主義ヲ強調シ  
來レル關係上「チャコ」問題モ平和的ニ解決シ得ルモノト  
思(考)ス依テ各國ハ「ボリヴィヤ」「パラガイ」兩國ニ  
對シ本紛争ヲ仲裁若ハ其ノ他ノ平和手段ニ依ル解決ニ委ス  
ヘキコトヲ要求ス又參集各國ハ兩國ニ對シ軍事行動ノ停止  
ヲ要求スルト同時ニ該地域カ平和的手段ニ依ラスシテ解決  
シ若ハ武力ニ依リテ獲得セラレタル場合等ニ於テハ各國ハ  
之ヲ承認セサルコトヲ宣言ス尙本件ニ不戰條約ヲ引用セサ  
ルハ「ボリヴィヤ」カ該條約ニ加入シ居ラサル爲ナリト報  
セラレ居レリ

亞爾然丁及智利へ轉電セリ

132 昭和7年8月4日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛

連盟理事選挙制度改正に関する意見提出方事

別添事務總長書翰ニ付御了悉ノ上事務總長宛回答振何分ノ  
儀御回報相煩度

(付記)

本省 昭和8年1月9日後5時0分發

第一三號

貴電第二號ニ關シ

本件ニ關スル當方ノ意見左記ノ通りナル處目下ノ時局ニ鑑  
ミ御見込ニ依リ書面ニ依ル回答ヲ見合セ委員會ニ於テ適宜  
敷衍説明セラルルモ差支ナキニ付長岡大使トモ御協議ノ上  
適宜措置アリタシ

帝國政府ハ國際聯盟ノ普遍性及國家平等ノ原則ニ鑑ミ葡萄  
牙政府ノ本件改革案提出ノ動機ニ對シ滿腔ノ同情ヲ寄スル  
次第ナルモ之カ解決方法ニ關シテハ必スシモ同政府ト所見  
ヲ同クセス蓋シ敏活且適切ニ理事會本來ノ機能ヲ發揮セシ  
ムル爲及聯盟ヲシテ超國家タラシメサル様理事會ニ於ケル  
全會一致ノ原則ヲ維持スル爲ニハ理事數ヲ一定ノ限度ニ止  
メ置クコト肝要ナルノミナラス常任理事トノ權衡上ヨリ見  
ルモ此ノ上非常任理事ノ増員ハ避クヘキモノナリト思考ス

ル一方非常任理事ノ地理的配分ニ關シ嘗テ總會カ採擇シタル勸告ノ趣旨ヲ一層好ク參酌且徹底セシムル等適當ナル方法ヲ採用スルニ於テハ現在ノ非常任理事數ノ下ニ於テモ充分所期ノ目的ヲ達成シ得ヘシト思考ス

133 昭和7年8月11日

在オランダ松永公使より  
内田外務大臣宛(電報)

メーメル問題訴訟に関するリトアニア側勝訴  
の判決について

ハーグ 8月11日後発  
本省 8月12日前着

第二七號

「メーメル」問題訴訟ニ關シ今十一日國際司法裁判所ハ左ノ如キ判決ヲ下シ事件訴訟ハ附託事項第四及第六ノ二點ヲ除キ「リトアニア」側ノ勝訴ニ歸シタリ

(一)「リトアニア」國主權ヲ害スルコトアルヘキ行政府長官ノ重大ナル「メーメル」條約及附屬書違反ノ行爲アリタル場合「メーメル」地域知事ハ他ニ方法ナキ時ハ國家利益保全ノ手段トシテ長官ヲ罷免スルノ權利ヲ有ス罷免ハ(二)長官

第九〇號

(一)<sup>(1)</sup>本年五月ノ「フアシスト」代表議會ノ決議ニ加ヘ客月三十日ノ軍縮會議ニ關スル「バルボ」ノ論文(本月五日附

公第一一五號ヲ以テ詳細報告濟)ニ依リ伊國ノ聯盟脫退ノ風評ヲ生シツアル次第ハ既ニ新聞通信等ニ依リ御承知ノ事ト存スル處伊國官邊筋ニ於テハ右論文ハ「バ」將軍ノ一個ノ意見ニ過キスシテ伊國政府ノ見解ト見ルヲ得スト爲シ居ルモ現職大臣タル「バ」カ右ノ如キ大膽ナル意見ヲ「ムソリニ」ノ了解無クシテ新聞ニ發表セリトハ解スルヲ得ス加フルニ聯盟ハ英佛米三國ノ傀儡ニ過キストノ點ハ前顯代表議會決議ノ當時伊國政界ノ事情ニ通シ自然「ム」ノ意見ヲ探聞セリト認メラルモノカ小官ノ質問ニ對シ答ヘタル所ト全然同一ナル等ノ事情ニ顧ミ右論カ骨子ニ於テ「ム」ノ意見即チ伊國政府ノ意見ト看做シ差支無ク現ニ外間ニ於テハ斯ク看做サレ居レリ

(二)伊國カスク聯盟脫退ノ氣勢ヲ示シツアル眞意ニ付(イ)威嚇ニ依リ或ル目的ヲ達セント欲スルカ(ロ)單ニ聯盟ノ拘束ヲ脱シテ行動ノ自由ヲ得ントスルニ止マルカ乃至ハ(ハ)聯盟ノ崩潰ヲ策スルノ趣旨ニ出ツルカノ範圍ヲ出テスト認

ノ他ノ行政府委員ノ職務停止ヲ當然件フモノニ非ス(三)本年二月六日ノ「ベツチエル」長官罷免ハ其行ハレタル狀況ニ照ラシ正當ナリ(四)附託事項第五及第六ノ二點ニ關スル「リトアニア」側異議(「リトアニア」政府第二次答辯書參照)ハ之ヲ棄却ス(五)「シマイチス」氏ヲ長官トスル行政府ノ組織ハ其行ハレタル狀況ニ照ラシ正當ナリ(六)三月二十二日ノ「メーメル」代議院解散ハ不當ナリ

尙裁判所ハ其判決理由中ニ於テ前記第六「メーメル」代議院ノ解散ヲ不當トスルノ判決ハ現在ノ代議院選舉ノ結果ヲ無効トスルノ趣旨ニ非スシテ四國政府ノ意見ハ將來ニ對シ「メーメル」基礎法解釋ノ規範ヲ得ントスルニアルモノト認メタル旨述ヘ居レリ全文郵送ス

佛、獨、聯盟ニ轉電シ英、伊ニ郵送セリ

134 昭和7年8月17日

在伊國岡本(武三)臨時代理大使より  
内田外務大臣宛(電報)

伊國連盟脫退の風説について

ローマ 8月17日後発  
本省 8月18日前着

メラルル處威嚇ナリトスレハ其目的ハ「バ」論文中ニ要求シツツアル如ク軍縮會議ヲシテ伊國ノ欲スルカ如キ軍縮決議ヲ採用セシメントスルカ又ハ

(2)聯盟ノ保全上ノ焦眉ノ必要ヨリ英又ハ佛ヲシテ從來伊國ノ要求シツツアル「アフリカ」ニ於ケル委任統治地域ノ讓渡ニ同意セシムルニ資セムトスルニアルモノト見ルノ外ナキカ右ハ軍縮會議參加國乃至ハ英佛ヲ全ク甘ク見縊ルモノト云フヘク形勢看取ニ長スル「ム」カ此ノ點ニ信ヲ置キ居ルモノト認メ難シ、行動ノ自由ノ回復ハ勿論其目的タルニハ相違ナキモ「コウフ」事件以來聯盟ニハ舊怨ヲ晴ラシ且ツ早晩「アルバニア」問題最終解決ノ必要アルニ付單ニ行動ノ自由ヲ得ムトスルノミナラス此ノ際聯盟ノ崩潰ヲ策スルノ趣旨ヲ含ムモノト觀測セラル

(三)右伊國脫退ノ氣勢ハ滿洲事件以來ノ帝國ノ對聯盟態度ニ刺戟セラレタル結果ト觀測セラルルト共ニ帝國ノ對聯盟態度ハ目下伊國側ノ異常ニ注意スル處ニシテ現ニ吉田大使歸朝暇乞ノ爲往訪セラレタル際「ム」ハ日本ハ愈々脱退スルヤト再三訊シタル趣ナリ

本件伊國ノ態度ハ帝國ノ對聯盟策上深甚ノ注意ヲ要スト認

ムルニ付冗長ヲ顧ミス電報ス

135 昭和7年9月5日 在ジュネーヴ杉村(陽太郎)公使より  
内田外務大臣宛

外務大臣就任祝意および連盟事務次長辭職の  
意思表明について

九月五日

在ジュネーヴ

國際聯盟事務局

杉村 陽太郎

外務大臣伯爵 内田 康哉閣下

拜啓

陳者秋冷ノ候ニ御座候處愈々御勇健御精勵ノ段皇國ノ爲メ  
大賀此事奉存候

外務大臣ニ御親任ノ御趣拜聞シタル際早速御祝辭申進度冀  
望ニ有之候ヒシモ當時軍縮會議ノ外聯盟政治部長トシテノ  
本務モ殊ノ外繁劇ナリシ爲メ申譯ナシト日夕心ニ苦悶シッ  
ツモ其意ヲ果サス延引遂ニ今日ト相成候コト事情御諒察何  
卒不惡御寛恕ノ程奉祈上候

明ナルノ感ヲ以テ神氣ヲ新ニシテ努力奮闘シ得ルコト閣下  
御出馬ノ賜ニ有之天ニ向ツテ感謝スル次第ニ御座候  
案スルニ日支事件勃發ノ當初以來我方内部ノ不統一ノ爲メ  
我主張モ兎角彌縫的トナリ之カ爲メ甚シク世ノ輕侮ヲ招キ  
タルコト殆ント測リ知ルヘカラサルモノ有之候

日本カ聯盟ニ於ケル常任理事國トシテ世界全般ニ利害關係  
ヲ有シ世界ノ各方面ニ於ケル平和確保ノ責ニ任スヘキ大國  
タルハ「ヴェルサイユ」條約以來天下ノ夙ニ識認スルトコ  
ロニ有之殊ニ極東ノ平和ハ日本之ヲ擁護スルニアラサレハ  
確保シ得サルノ理モ洋ノ東西ノ等シク確認シテ我ニ倚賴ス  
ルトコロニ候故ニ滿洲國ノ獨立カ日本ノ見ルトコロヲ以テ  
セハ極東平和ノ禍機ヲ藏スル滿蒙ニ今回ノ如キ不祥事件ノ  
再發ヲ防止シ得ル唯一ノ實際的方策ナリトセハ文明各國ハ  
世界ニ對スル日本ノ此責務遂行ニ對シ支持ヲコソ與フヘシ  
斷シテ無責任ナル妨碍ヲ加フヘキ義ニハ無之ト被認候  
這般ノ理ハ極東ニ利害ヲ有スル英佛等ニ於テハ昨今十二分  
ニ理解セラレ始メタルトコロニ有之吾人ハ此正シキ理解ヲ  
善導シテ事件ノ解決ニ資セサルヘカラスト確信致候  
文明大國タル新日本ノ國際的使命カ極東平和ノ擁護者タル

今秋ノ聯盟總會ハ我國及聯盟ノ双方ニトリ眞ニ重大ナル關  
係ヲ有スヘキコト申迄モ無之就而ハ曩ニ御就任ノ際御訓示  
相成タル御精神ヲ體シ心血ヲ傾倒シテ御奉公可致決意罷在  
候

昨年以來帝國ト聯盟トノ關係不當ニ惡化シタルニ付テハ小  
官ノ微力ニシテ聯盟内部ニ於ケル策動不十分ナリシコト其  
要因ノ一ナルハ明白ノ事實ニ有之爾來責任ノ重キヲ自覺シ  
平常自責煩悶致居次第ニ御座候

然カレトモ閣下ノ御奮起ニ依リ帝國政府ノ御方針モ確立シ  
文明大國日本ハ今ヤ其統一セル國策ヲ提ケ堂々ト世界ト意  
見ヲ闘ハシ得ルコトナリ吾等末輩迄モ茲ニ始メテ大國民  
タル權威ヲ覺知シ其意氣ニ醒メ聯盟ヲシテ遠大ノ見地ニ立  
チ國際正義及世界平和ノ眞ノ確立ニ付キ高處大局ヨリ根本  
的ニ考慮セシメ之ニ基キ專ラ現實ノ眞理ニ即シタル日支事  
件ノ解決ニ貢獻セシムル様仕向ケ得ヘク從來餘リニ外間ヨ  
リ被告扱又ハ侵略國視セラレタルカ爲メ動モスレハ猪突的  
ニアラサレハ退嬰的トナリ我代表ハ會議ニ於テモ唯辯解ニ  
急ニシテ大國ノ代表タル見識ト品位トヲ失ヒ時ニ卑屈ナル  
態度ヲサヘ執ルニ至リタルノ弊ヲ一掃シ恰モ亂雲散シ天日

ニ在ラハ我ノ爲ストコロハ單ニ我一個ノ利益ノミナラス廣  
ク文明世界全般ノ利福ノ爲メナラサルヘカラス支那ノ赤化  
ヲ防キ排外ヲ戒ムルハ日本一個ノ自衛權ノ發動ト言ハンヨ  
リモ文明各國全部ノ爲メニスル正當防衛ニシテ而シテ是レ  
帝國ノ行動カ公明正大ニシテ俯仰天地ニ恥ササル所以ト可  
申小官ハ斯ク信シ斯ク想ヒ今秋ノ外交戰ニ善處スル覺悟ニ  
御座候

人或ハ言ハン九國條約上日本ハ其權利ナシ、聯盟規約モ大  
國ニ斯カル權限ヲ認メス不戰條約カ日本ノ軍事行動ヲ是認  
スルヤ疑ハシト、吾人ト雖モ條約ノ遵守スヘク國際法ノ尊  
重スヘキヲ知ル、然カレトモ國際關係ハ根本ニ於テ國際道  
德ニ依リ基礎ツケラレ支配セラレ誘導セラルルノ事實ヲ閑  
却シテ徒ニ法律論又ハ條約論ニ没頭スルハ事ノ本末輕重ヲ  
誤レルモノニシテ表面上ハ如何ニ條約ノ規定ヲ格守シ國際  
法ノ原則ニ準據スルカニ裝フトモ根底ニ於テ國際道義ヲ無  
視シテ顧ミサルモノアラハ此ハ文明各國共同ノ敵ト稱セサ  
ルヘカラス吾人ハ日支事件ノ處理ニ當リ更ニ更ニ道義論ヲ  
力強ク高調スヘキノ要ヲ確認致候  
次ニ聯盟規約ノ主旨ハ國際協力ノ促進ニ依ル世界平和ノ確

保ニ存スルヲ以テ或聯盟國ニシテ若シ排外ヲ以テ國是トスルニ於テハ始メヨリ聯盟ノ根義ヲ否定シタルモノニ有之規約ノ條項ヲ盾ニ執リ權利ノミヲ主張スルコト到底許スヘカラス不戰條約ニ付テモ同様ノ論定ヲ下シ可得候  
尙ホ九國條約ノ骨子ハ其前文ニ明示スルカ如ク極東ノ平和支那ノ保全及列國ノ通商擁護ニ存スルヲ以テ日本ノ行動カ此根本趣旨ヲ貫徹セントスルモノナルニ於テハ何等憚ルトコロナク其所信ヲ遂行スヘク時局ハ條文ノ末ニ因ハレ條約ノ大精神ヲ閑却シ法律上ノ技術論ヲ上下スヘク餘リニ重大ニテ候

聯盟總會ノ開期近ツクニツレ當時ノ空氣ハ日々ニ興奮ノ度ヲ相加ヘ今後ノ形勢未タ容易ニ測斷シ得サルモノ有之候得共小官一個ノ私見トシテハ總會又ハ理事會ヲシテ大体一、昨年十二月ノ理事會ハ調査委員任命決定ノ際豫見セルカ如ク日支ノ問題ハ歐洲ノ國際問題ニ比シ甚シク其性質ヲ異ニスルヲ以テ之カ解決ノ方法モ自ラ同一ナル能ハス依而之カ處理ニハ特ニ時日ノ經過ヲ必要トス  
二、聯盟ハ日支兩國ニ對シ今後再ヒ事態ヲ險惡ナラシメサルコト及昨年以來ノ不祥事件ノ後始末ノミナラス特ニ滿

ノ規定ハ何時ニテモ有效ニ日支問題ニ適用セラレ得ヘキ旨ヲ明ニシ以テ聯盟カ事件ヨリ一切手ヲ引クカ如キコトナキ旨ヲ附加スルハ當然且不得已コトカト被認候  
我代表部ト聯盟側トノ間ニ立チ二重人格ヲ以テ行動シ満足良好ナル效果ヲ收ムルコト實ハ容易ノ業ニハ無之今回ハ或ハ最後ノ御奉公トナルヤモ計ラレスト覺知セラレ候ニ付キ我代表部ト連絡ヲ執リ聯盟内部ニ在テ御訓令ノ御主旨貫徹ヲ期シ誓ツテ多年ノ御恩誼ニ酬キ兼テ國恩ニ報シ度シト決意罷在候

玆ニ閣下御親任ニ對スル御祝辭申述旁如斯御座候  
時局眞ニ重大何卒折角御尊體御自愛ノ程奉祈願候 敬具

136 昭和7年9月17日 在米國加藤(外松)臨時代理大使より  
内田外務大臣宛(電報)

# 連盟の現状に関するスター紙記事について

ワシントン 9月17日後發  
本 省 9月18日後着

第四七九號

「ボール、スコット、モラー」ハ十七日附ニテ巴里ヨリ

洲ニ於テ再ヒ平和カ攪亂セラレサル様徹底の方法ヲ講スル爲メ根本の方策ヲ考慮スヘキコトヲ勸告ス

三、日支兩國間ニ右ノ目的ノ爲メ交渉開カル場合双方ニ於テ異議ナキニ於テハ支那ニ重要ナル利害關係ヲ有スル國ヲ日支兩國カ同意スル方法ヲ以テ右交渉ニ關與セシメ得ヘシ

四、聯盟ハ事件解決ノ結果ヲ確認スヘク尙ホ將來ト雖モ規約ノ規定ニ依リ日支兩國間ノ平和確保ニ助力スヘシト言フカ如キ意義及程度ノ解決案ヲ採擇セシメ度キモノト私ニ希望致居候

聯盟ハ規約上ノ任務殊ニ第十條及第十一條ノ平和確保ノ職責ヲ遂行スルニ止メ調査委員カ或ハ其報告中ニ言及スルコトアルヘキ滿洲ノ「ポリテイカル ステータス」ノ問題ニ對シテハ一切觸ルルコトナカラシメ唯今日聯盟各國ヲシテ直ニ滿洲國ヲ承認セシムルコト事實上困難ナレハ將來之ヲ可能ナラシムル様今ヨリ可然其基礎ヲツクリ置クコトト致度、去リトテ必スシモ九國條約ノ改訂乃至華府會議ノ再開ヲ豫想セス日支交渉ノ開始又ハ終結ニ付テモ何等其時期ヲ豫定セス唯支那及小國側ヲ安心又ハ納得セシムル爲メ規約

大要左ノ如キ通信ヲ爲シ同日華府夕刊「スター」ニ主要記事トシテ掲載セラレ注意ヲ牽キ居レリ

聯盟ハ目下重大ナル危機ニ瀕シ居ルカ英佛ノ間ニ於テハ聯盟ヲ排シ之ニ代フルニ米國ニモ受ケ入レラルヘキ何等カノ國際機關ヲ攻究中ナルカ聯盟(脱)棄<sup>(編註)</sup>ノ理由左ノ如シ

一、米國及露西亞ハ最初ヨリ聯盟ニ加入セス又米國ハ今後加入ノ見込モ無シ

二、英國ハ從來ノ熱心ヲ失ヒ過去兩三年來聯盟ニ對シ弱キ態度ヲ示シ「マクドナルド」ノ如キモ世界問題ハ聯盟ニ依ルヨリモ寧ロ關係國間ノ直接交渉ニ依リテ解決スル事ヲ希望シ居ルモノノ如シ

三、過去一年間極東問題ニ關スル聯盟ノ活動ハ無力ニシテ日本ハ全ク聯盟ヲ無視シ併モ聯盟カ規約ヲ遂行スレハ脱退ノ氣勢ヲ以テ脅迫シ居レリ

四、獨逸ハ軍縮會議ヨリ脱退セントシ若シ佛國カ獨逸ヲ條約違反ナリトテ聯盟機關ヲ利用シテ壓迫セントセハ獨逸モ亦聯盟ヨリ脱退スヘク伊太利モ亦獨逸カ脱退セハ之ニ同情シテ續イテ脱退スヘク右ノ結果洪牙利、奧太利及勃牙利ノ脱退ヲ促スヘシ

五、「チャコ」問題ニ付テモ亦聯盟ノ無力ヲ示シタルカ此ノ外ニ「ドラモンド」ノ辭職問題、聯盟費用問題及分擔問題等幾多ノ重大問題有リ

右ノ中聯盟ニトリ最モ重大ナル危險事項ハ滿洲問題ト獨逸ノ問題ナルカ日本ノ進退ハ主トシテ「リットン」報告ノ内容如何ニ依リテ決セラルヘク獨逸ノ進退ハ佛ノ出方如何ニ依ルヘシ日獨伊等脫退スルトセハ大國トシテ殘ルハ英佛ナルカ英ノ態度既ニ前述ノ如シスル情勢ナルヲ以テ聯盟職員及英國政府並ニ或ル小國等ハ右ノ如ク危機ノ到來ヲ出來得ル限リ延ハサントシテ焦慮シ居レリ之カ爲メニ九月初旬ニ開カルヘキ總會ヲ第四週ニ延期シ軍縮會議ヲ延期シ更ニ佛ニ對シテハ對獨回答ヲ何等カ妥協付ク迄延期セラレタシト依頼セリ「リットン」報告モ既ニ用意出來タルモ總會迄ハ發表セラレサルヘシ日本カ六週間報告書發表延期ヲ要求シタルニ對シ欣シテ之ニ應シタルモ右ノ理由ニ基ク聯盟ハ斯ノ如クシテ何トカ此ノ危機ヲ脱セント焦慮シ居ルカ之ト同時ニ之ヲ改造シテ米國ニ迎ヘラルルカ如キ機關ト爲スヘシトノ空氣亦次第ニ濃厚ヲ加ヘツアリ聯盟ニ轉電シ土ヲ除ク在歐各大使ニ郵送セシム

往電第四七六號ニ關シ

一、中立委員會ハ往電第四〇六號宣言ヲ了シ二十二日「バ」兩國政府ニ對シ一ノ提議ヲ爲セルカ其要點ハ兩國ニ於テ無條件ニ戰闘ヲ停止シ且何等ノ留保無キ仲裁方法ニ依リ紛争ノ解決ヲ計ランカ爲メ直ニ交渉ヲ開始スヘキコトヲ受諾アリタシ（兩國ニ於テ右ヲ受諾スル上ハ）直ニ委員會ハ「チャコ」代表者ヲ派遣シ果シテ戰闘停止セラレタリヤ否ヤヲ確カムヘク此ノ場合若シ代表者ヨリ兩當事國ノ一カ戰闘停止ノ約束ヲ破レル旨ノ報告ニ接スルニ於テハ委員會ハ該國ヲ以テ「アグレッサ」ト宣言シ米大陸一切ノ政府ニ於テ其外交及其領事代表ヲ該國ヨリ引揚ケシムルコトヲ提議スヘシト言フニ在リ

二、二十三日壽府發紐育「タイムス」特電（「ストレイト」）ハ日支紛争ニモ鑑ミ「チャコ」問題ニ對シ積極的行動ニ出ツヘシトノ論理事會ニ擡頭シツツアル模様ヲ報シタル後結局聯盟トシテハ此ノ際該問題ニ飛込ムヲ好マス米大陸諸國ニ於テ解決センコトヲ遙カニ希望シ居ルコト確カナリ唯聯盟ハ南米ト亞細亞トノ間ニ取扱ヲ異ニスルノ非難日本側ヨリ起ル形勢ニアル爲メ此ノ際米國力羅

編注 「棄」の個所に「機」の書込みあり。

137 昭和7年9月24日 内田外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

連盟第十三回通常總會の対策につき回訓

本省 9月24日後5時 分発

第一號

巴里發聯本公機密第一三七号貴信ニ關シ

(イ)一及三ニ關シ何レモ貴見ノ通り取計ハレ差支ナシ

(ロ)二及四ニ關シテハ別ニ電報ス

138 昭和7年9月24日 在米國齋藤臨時代理大使より  
内田外務大臣宛(電報)

チャコ紛争解決中立委員會による無条件戰闘  
停止および無留保仲裁の提議について

ワシントン 9月24日後発  
本省 9月25日前着

第五〇二號

典亞米利加ニ於ケル戰爭防止ニ他ノ世界ノ加ハルコトニ  
贊成セハ極東ニ於ケル條約尊重ノ爲米國カ聯盟ト協力シ  
ツツアルニ對シ日本公衆ノ憤慨スル根據ヲ薄弱ナラシム  
ヘシト考ヘラレ居レリト報セリ

聯盟ニ轉電セリ

139 昭和7年9月27日 在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛(電報)

總會副議長選挙に対する満州事変の影響について

ジュネーヴ 9月27日前発  
本省 9月27日後着

第六號

今次總會ニ於ケル副議長選舉ニ於テ「コルフ」事件翌年伊  
國落選ノ前例ニ鑑ミ日支事件カ我方ノ票數(ニ)影響スヘ  
キコトハ豫想ニ難カラサリシ次第ナリシモ當方ニ於テハ故  
ト運動カマ敷キ行動ニ出ツルヲ避ケ萬一伊國ノ先例ヲ辿ル  
カ如キ事アラハ之ヲ以テ聯盟ヨリノ挑戰ト見做シ萬事ノ腹  
案ヲ作ル可ク決心シ居タル處殊ニ二十六日朝南米各國代表  
參集對總會策ヲ議シタル時日本ノ副議長問題出テタル際ニ

モ豫テ大國ヲ副議長ト爲スコトニ主義上反對シ來レルニ、三國ヨリ日本ニ投票スルコトニ反對ノ意見ヲ表明シタル者アリタル外大體我方ニ有利ノ空氣ナリシ趣ナルカ副議長ノ選舉直前ニ行ハレタル委員會議長ノ選舉ニ於テ西班牙ハ第五委員會ノ議長ヲ白耳義ニ奪ハレタル爲副議長自薦運動ヲ爲シタル由ニテ彼は相俟テ我方ノ票數ニ影響ヲ及ホシタルモノト察セラル

140 昭和7年9月27日 在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟第十三回通常總會一般討議における郭中  
国代表の日中紛争に関する陳述について

ジュネーヴ 9月27日後発  
本省 9月28日前着

第七號

二十七日總會一般討議ニ於テ郭泰祺ハ日支紛争ニ關シ大略左ノ通り述ヘタル上聯盟力カ害、智的協力各種專門家派遣等ニ關シ支那ニ與ヘタル援助ニ對シ謝意ヲ表シ聯盟支那間ノ緊密ナル關係ヲ高唱セリ日支紛争ニ對スル聯盟ノ昨年來

第三號

往電第一号(ロ)ニ關シ

經濟問題ニ關シテハ

近ク國際經濟財政會議開催ノ豫定ナルニ鑑ミ貴見ノ通今次總會ニハ我方ヨリ進ンテ問題ヲ提起セサルコト致度尙御來示ノ諸點ニ關スル當方意向左ノ通ナルニ付必要ニ應シ適宜御措置相成度シ

(一)最惠國條款ヲ基礎トスル從來ノ根本主義ハ何等變更ノ要ナク假令經濟危機ニ對スル例外的暫行措置ト雖モ最惠國條款ヲ無視シテ地方的協定其他ノ方法ニ依ル排他的特惠制度ヲ設クルコトニハ反對スルコト致シ度シ

(二)「クオータ」制度ハ現在歐洲及近東諸國以外ニハ之ヲ實施シ居ル國ナキ爲本邦ニ取リテハ比較的其ノ影響少キモ佛本國、希臘、土耳其等ニ對スル本邦輸出貿易ハ既ニ相當ノ障害ヲ受ケ居ル處今日ノ形勢ニテ推移スレハ我方重要輸出市場タル他ノ地方ニモ同制度ノ實施ヲ見ルニ至ルノ虞無シトセス旁々我方トシテハ同制度ノ廢止ヲ希望ス尙日佛第六條ノ如ク條約ニ輸入ノ禁止制限ヲ爲ササルヘキ旨ノ規定アル場合ニハ同制度ハ條約違反ト目スヘキモ

ノ努力ヲ感謝シタル後客年總會以來聯盟ノ各種事業ニ關シ事務總長ヨリ提出セル報告ハ支那ニ極メテ重大ナル關係有リ支那ハ客年來未曾有ノ危機ニ遭遇セルカ右ハ聯盟ニ取リテモ重大ナル問題ナリ本件紛争ハ臨時總會ニ於テ審議セララル事トナリ居ルモ今次總會ニ於テモ之ヲ默過シ得サル可シ本件ハ議題ニハ無キモ一般討議ニ於テ之ヲ議スルハ何等差支無シト思考ス本件ハ規約不戰條約ヲ基礎トシテ判斷スルヲ要シ殊ニ一月七日ノ米國務卿ノ聲明及三月十一日總會決議ニ聲明セラレタル侵略行爲ニ基ク自治体ノ不承認ノ原則ニ主要意義ヲ有セシムルヲ要ス支那ハ素ヨリ事件ノ平和的解決ヲ促進スルニ咨ナラス、又軍縮ノ實行ニハ國家ノ安全ヲ第一ニ考慮セサル可カラス況ンヤ日本軍閥ノ行動ニ依リ支那ノ領土保全ノ破レタル現状ニ於テヤ云々

141 昭和7年9月28日 内田外務大臣より  
在ジュネーヴ連盟代表宛(電報)

連盟第十三回通常總會における經濟問題の対応につき回訓

本省 9月28日後9時 分発

ノナリ

(三)爲替管理制度ニハ我國ノ如ク單ニ資本ノ逃避ヲ防止スルニ止マリ輸入代金ノ支拂ハ之ヲ制限セサルモノアリ(九月五日附通一普通合第九二八號參照)又奧地利希臘等ノ如ク嚴重ナル制限ヲ加ヘ輸入代金ノ支拂サヘモ之ヲ困難ナラシムルモノアリ通商上ノ障害トナルハ後者ニシテ本邦ノ一部ニハ貿易管理ニ進ムノ必要アリト論スルモノアルモ差當リ本邦ニ於テ右ノ如キ嚴重ナル爲替管理ニ至ルコト無カルヘキニ付問題トナリタルトキハ御來示ノ趣旨(尤モ財界ノ危機云々ハ少シク強キニ過クルニ付 abnormalノ事態ニ對スル措置ト改正アリ度シ)ニテ本邦ノ措置ヲ辯護スルト共ニ各國ニ於テ爲替管理ニ依リ通商ヲ阻害セサル様充分ノ考慮ヲ拂フノ必要アルコトヲ主張セラレ度シ(本邦商品ハ近東及南米諸國ノ爲替管理ニ依リ輸出ヲ妨害セラレ居ルコト少カラサル模様ナリ)

(四)尙各國ノ高率關稅カ現在通商ノ障害トナリ居ルコト甚大ナル處最近英國カ保護關稅主義ニ轉換シタル外其ノ他諸國ニ於テモ關稅引上ヲ爲スモノ少カラス特ニ最近本邦商品カ爲替下落ノ影響ヲ受ケテ各國市場ニ進出スルヤ之カ

防遏ノ爲關稅ヲ引上ケ（八月三十日印度ニ於テ綿布ニ付英國品ニ對スル從價二割五分ヲ据置キ乍ラ其ノ他ノ諸國品ニ對シテハ三割一分二厘五毛ヨリ五割ニ引上ケタルハ最モ顯著ナル例ナリ）又ハ爲替「ダンピング」稅ヲ課スルモノ（佛國ニハ爲替差額補償附加稅アリ、加奈陀及南阿ニ於テハ純分比價ニ近キ公定換算相場ヲ定メ右相場ニ依ル輸入貨物ノ換算價額ト時價相場ニ依ル換算價額トノ差ヲ「ダンピング」稅トシテ徵收ス、比律賓ニ於テモ加奈陀ニ類似スル「ダンピング」稅設定ノ法案提出セラレ目下審議中尙其ノ他ノ各地ニ於テモ爲替「ダンピング」稅設定ノ議論アリ）相次グノ有様ナル處右ハ最惠國條款ニ違反スルノミナラス經濟上ノ見地ヨリ見ルモ本邦ノ如ク原料ヲ海外ニ仰ク國ニ於テハ爲替下落ハ當然原料ノ騰貴ヲ來シ（綿布ニ於テハ價格ノ約六割ハ原料代ナリ）又工賃モ次第二騰貴スル次第ナルヲ以テ此種關稅ノ引上ケ又ハ「ダンピング」稅ニハ不當課稅ト認ムヘキ場合多シ

(五)捕鯨條約ニ関シテハ從來申進ノ臬以外別ニ説明スベキ事項ナシ

波蘭ニ轉電シ津島財務官ニ転報アリ度シ

當事國モ理事會ノ介入ヲ要求スル所ナキモ聯盟トシテハ之レカ爲冷（淡）ナルヘカラスト主張シタル處事務總長ハ本件ヲ正式ニ理事會ノ問題トシ報告者又ハ委員會ヲ任命スルトキハ兩國代表者ヲ列席セシメサルヘカラサルヲ以テ差當リ議長ノ協力者トシテ二、三名ノ理事ヲ指名セリ而シテ廿七日總會一般討議ニ於テ「バラガイ」代表ハ武力ニ依ル領土併合不承認ノ原則ヲ高調シ同國カ仲裁裁判ニ附議スル意アルコトヲ聲明シタルニ對シ廿八日總會ニ於テ「ポリビア」代表ハ中立國ノ調停及理事會委員會ノ努力ニ依リ兩國間ノ紛爭解決ニ至ランコトヲ希望シ次テ總會議長ハ兩代表ノ陳述ヲ諒トシ速ニ平和的解決ノ實現センコトヲ切望セリ

米ヘ轉電シ在歐各大使ヘ暗送セリ

米ヨリ伯、亞、智ヘ轉電アリタシ

143

昭和7年9月30日 在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛（電報）

連盟第十三回通常總會一般討議における仏・英・伊國各代表の演説について

142 昭和7年9月28日 在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛（電報）

チャコ紛争への連盟理事会および總會の対応について

ジュネーヴ 9月28日後発  
本 省 9月29日前着

## 第八號

廿三日公開理事會ニ於テ「ポリビア」、「バラガイ」紛争ニ關シ前議長「マトス」ヨリ閉會中同議長ノ採リタル措置ニ付報告アリタル處「マダリアガ」ノ提議ニ依リ本件ニ關スル理事會ノ行動ヲ確保スル爲報告者又ハ小委員會ヲ任命スヘキ旨主義上決定シタルカ廿七日ノ秘密會ニ於テ理事會ハ兩國ニ對シ紛爭解決ノ爲武力ニ訴ヘサルヘキコト及兩國カ仲裁裁判司法的解決又ハ理事會ニ付議スル希望アルコトニ付注意ヲ喚起スルト共ニ米大陸諸國ノ調停カ功ヲ奏センコトヲ希望シ之ヲ支持スルモノナルヲ以テ兩國カ右諸國ノ好意的斡旋ヲ受諾センコトヲ切望スル旨ノ電報ヲ理事會議長ヨリ發スルニ決シタリ

尙「バルマ」理事等ハ本事件ハ日支事件ト異ナリ何レノ

## 第九號

ジュネーヴ 9月30日前発  
本 省 9月30日後着

廿九日總會一般討議ニ於テ佛代表「エリオ」ハ過去ニ於ケル聯盟ノ功績ヲ稱ヘ殊ニ本年軍縮會議ノ成果、不戰條約ノ活用、「スチムソン」聲明ヨリ明カトナレル米國ト聯盟ノ協力、勞山會議及「ストレサ」會議ノ成功、世界經濟會議ノ召集、土耳其「イラク」ノ聯盟加入及近々亞爾然丁ノ復歸スヘキコト等ヲ舉ケテ聯盟ノ將來ニ對スル悲觀論ノ根據無キ事ヲ説キ佛國ノ根本方針ハ Pacte, tout le Pacte, rien que Pacte ナリト述ベ佛獨關係、日支問題等ニハ直接觸ルル所無シ

次ニ英代表「セシル」ハ聯盟ニ對スル故意ニ誇張セラレタル悲觀論ハ問題トスルニ足ラサルモ眞面目ナル批判論ハ之ヲ無視シ得ス即チ聯盟ハ多大ノ經費ヲ費シ乍ラ其ノ行動ハ大ナル効果ヲ舉ケ居ラスト爲ス非難アルモ右ハ聯盟其ノモノヨリモ聯盟國ニ對シ向ケラル可キモノニシテ近時各國ノ平和ニ對スル熱心ノ減退セル事ハ其ノ主因ヲ爲セリトテ日支問題ニ言及シ本件ノ責カ日支兩國ノ何レニ有リヤハ茲ニ

斷定シ難ク今茲ニ其ノ何レヲ非難スル次第ニ非サルモ若シ規約カ完全ニ履行セラレタリシナランニハ極東現下ノ困難ハ存續セサリシナルヘシ本件ニ關シ制裁ノ適用ヲ云爲スルモノアリ予ハ本日深ク之カ論議ニ入ラントスルモノニ非サルモ當事國ノ何レカ規約ノ義務ニ違反ノ事實有ラサル可カラスト述ヘ世界現下ノ不況ノ原因ノ七割ヘ専ラ獨佛關係ニアリト言フモ過言ニ非サル可キ處之亦規約ノ精神ニ依リ解決セラレ得ヘシト爲シ最後ニ軍縮條約成立セサレハ少ク共戰前ノ事態ヲ再現スヘシト警告シ

伊國代表「アロイジ」ハ伊國ノ對聯盟政策不變ヲ說キ軍縮及經濟問題ニ關スル同國從來ノ態度ヲ繰返セリ

144 昭和7年10月14日 在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟總會第五委員会における麻薬製造制限条約批准促進に関する決議について

ジュネーヴ 10月14日後発  
本 省 10月15日前着

第一五號

旨ヲ述ヘ居リタル由

145 昭和7年10月16日 在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟最高幹部問題に関する總會第四委員会決定について

ジュネーヴ 10月16日後発  
本 省 10月17日前着

第一九號

聯盟最高幹部問題ニ關シ十五日第四委員会ノ決定要旨並ニ其主ナル點ニ關スル小委員会審議ノ経緯概要左ノ通(總會ニハ十七日提出決定ノ答)

一、事務總長及副總長ニ關シテハ諾威ヨリ聯盟ノ國際性維持上其ノ何レカ一方ハ之ヲ非常任理事國ヨリ出スヘシト提案アリ又次長制ニ就テハ現狀維持全廢(諾威)増員(波蘭ハ六名說「ガテマラ」ハ法律顧問ヲ含メ四名說我方ハ事務總長ハ十名迄任命シ得ルノ說ヲ出セリ)ノ三說出テ意見遂ニ分レタルカ討議ノ上小委員会内部ノ空氣ハ大体ニ於テ増員說ニ傾キシモ容易ニ決定ニ至ラス西班牙

第五委員会阿片問題審議ニ際シ英佛獨伊ヲ含ム十八ヶ國代表ヨリ麻薬製造制限條約批准ニ關スル準備狀況ノ報告アリタル處其ノ大部分ハ既ニ夫々施行法規ノ制定ヲ了シ議會ノ協贊ヲ經ル段取トナリ居ル趣ニテ所定ノ期日迄ニハ批准寄託ヲ爲シ得ル見込ナリトノ聲明ヲ爲セルヲ以テ我方モ壽府聯盟宛電第二六五號ノ趣旨ニ基キ目下精々準備中ナル旨聲明シ置キタルカ(本條約ニ既ニ批准ヲ了セルハ米國、葡萄牙、瑞典、波斯、秘露、「スダン」、「ニカラグア」ノ七國ナリ)第五委員会ハ所定ノ期日(來年七月十三日)迄ニ同條約ノ效力發生ヲ見ル爲未批准國ニ對シ條約ノ批准促進方ヲ慫慂スルノ決議ヲ爲スト共ニ第四委員会ニ對シ條約效力發生ノ曉之カ實施ニ要スル豫算ノ計上ヲ要請スル決議ヲ採擇シ何レモ總會ノ承認ヲ經タリ

尙本總會出席中ノ英國委員ハ澤田局長トノ會談中制限條約カ帝國政府ノ主張ニ基キ締結セラレタル關係上各國トモ我方ノ批准ニ對シ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ル旨ヲ語り且同國ニ於テハ該條約カ同國ノ主張ニ反スル基礎ノ下ニ出來上リタルモノナルニ拘ラス既ニ各般ノ準備完了シ近ク批准スル意向ナルカ他ノ製造國ニ於テモ可及的速ニ之カ促進ヲ希望スル

ハ妥協案トシテ事務總長又ハ副總長ノ何レカ一方ヲ非常任理事國ヨリ出シ其ノ代リ高級幹部ニハ常任理事國人ヲ一名宛入ルルコトヲ提案シ瑞西、愛蘭之ヲ支持シタルカ小委員会内ノ意見依然一致ヲ見ス殊ニ第一點ニ關シ總會カ事務總長又ハ副總長ノ一方ヲ非常任理事國ヨリ出スヘシト決定ヲ爲スハ規約第六條ノ違反ナリトノ議論伊國ヨリ出テ種々議論シタルカ伊國ハ飽ク迄右主張ヲ固執シ總會ト理事會トノ權限問題ニモ觸レ議論別レタルカ結局妥協案トシテ副總長ヲ一名増加シ(獨ハ之ニ反對セルモ後讓歩ス)若シ事務總長常任理事國人ナルトキハ副總長ノ内一名ハ非常任理事國人ヲ任命スルコトニ決定シ又次長ハ現在通三名トシ法律顧問ハ次長並ニ取扱ヒ聯盟最高幹部ノ一員ヲ爲スモノト見做スコトナレリ

二、事務局内ノ各國ノ均衡ヲ保ツ爲高級職員(法律顧問、部長ヲモ含ム)ニハ同國人二名以上ヲ置クコトヲ得ス且右原則ハ出來得ル限り速ニ實現スル樣努力スヘシ該處置ハ既存ノ契約ニハ效力ヲ及ホスモノニ非ストノ案ニ關シ「ガテマラ」ヨリ右措置ハ既存ノ契約ノミナラス其ノ更新及昇進ノ場合ニモ適用無キコトトスヘシトノ修正出テ

佛ハ之ニ賛成シタルモ獨ハ強硬ニ反對シ獨佛間ニ意見別  
レタルカ私的會談ヲ重ネタル結果佛ノ讓歩ニ依リ原案通  
リ決定セリ

三、總長ノ任期ハ十年、三年間延長スルコトヲ得、次長ノ  
任期ハ二ケ年<sup>?</sup>一回ニ限り更新スルコトヲ得  
四、事務總長及副總長官房ニハ總長及副總長ト同國籍ノ部  
員ヲ一名任命ス次長ノ官房ハ之ヲ廢シ唯次長ノ主管スル  
部内ニ同國籍ノ部員一名ヲ置クコトヲ得  
五、總長ハ俸給九萬法、宴會費五萬法、副總長、次長ハ俸  
給六萬法副總長宴會費二萬五千法、次長宴會費一萬法ニ  
削減決定

本年度ニ限り勞働事務局長及次長ノ俸給、宴會費ハ之ヲ合  
算シ局長十萬五千法次長七萬法トス  
現任事務局次長ノ俸給ハ其ノ儘トシ將來任命セラルルモ  
ノニ對シテハ今後二年間ハ一割減トス

146 昭和7年10月18日

在ジュネーヴ連盟代表より  
内田外務大臣宛(電報)

特別秘密理事会において連盟事務總長ニアブ

ノール任命について

ジュネーヴ 10月18日後発  
本省 10月18日後着

第二〇號

(一)十五日聯盟最高幹部問題住電第一九號ノ通解決シタルニ  
付テハ特別秘密理事会ニ於テ事務總長後任問題ヲ議シ滿  
場一致現副事務總長「アブノル」ヲ任命スル事ニ決定シ  
タル處最高幹部問題ニ關スル第四委員會報告十七日總會  
ニ於テ議セラルル筈ナリシヲ以テ右報告採擇迄最終決定  
ヲ留保スル事トナリ十七日總會終了後更ニ秘密理事会ヲ  
開キ右任命ヲ確認セリ(規約第六條第二項ニ依リ總會ノ  
同意ハ來ルヘキ臨時總會ニ於テ求ムヘキ事既報ノ通)

(二)往電第一九號所報ノ通事務副總長ヲ二名ニ増員シタル結  
果一名ハ伊國ヨリ他ノ一名ハ非常任理事國ヨリ選任スル  
事トナルヘク觀測セラレ居リ又次長ハ日英獨ヨリ出ス事  
トナルヘキハ暗黙ノ裡ニ認メラレ居ル次第ナリ

(三)往電第一九號(二)所報ノ「ガテマラ」案ハ現在「アブノ  
ル」「コメル」「ハース」ノ三高級職員ヲ有シ一九三三年  
七月ヲ以テ契約期限滿了スヘキ「コメル」情報部長ノ

條一普通第一七二號

昭和七年十月二十日

外務大臣伯爵 内田 康哉

在巴里

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏殿

「強制労働ニ關スル條約」御批准通告ニ關スル件

第十四回國際労働總會ノ採擇ニ係ル「強制労働ニ關スル條  
約」今般御批准相成タルニ付國際聯盟事務總長宛通告及右  
附屬書別添ノ通送付ス右可然御取計相成度同事務總長ニ於  
テ批准登錄濟ノ節ハ其ノ旨日附ト共ニ電報アリタシ

尚当方ノ調査ニ依レバ本件條約ニ付批准登錄ヲ了シタル國  
ハ「アイルランド」自由國、「リベリア」國、「グレート、  
ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國、瑞典國、  
「オーストラリア」聯邦、丁抹國、諾威國及西班牙國ノ八  
ヶ國ナルガ若シ他ニ批准登錄濟ノ國アラバ其ノ国名、登録  
ノ日附ト共ニ併セテ電報アリタシ

左記添附ノコト

一、「ドラモンド」總長宛英文書翰

二、御批准書写

147 昭和7年10月20日

内田外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛

強制労働条約の批准通告方訓令

付記一 昭和六年十二月十七日付大養外務大臣より大

養内閣總理大臣宛公信条一機密第五七四号

強制労働条約の批准につき上奏

二 十月十四日付斎藤内閣總理大臣より内田外務

大臣宛公信内閣六年外甲第一一五号

強制労働条約批准に関する指令

(三、御批准書英譯文)

(付記一)

條一機密第五七四號

昭和六年十二月十七日

外務大臣 犬養 毅

内閣總理大臣 犬養 毅殿

第十四回國際勞働總會ニ於テ採擇セラレタル條約案ニ  
對スル處理ノ件

昭和五年「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル第十四回國  
際勞働總會ノ採擇ニ係ル「強制勞働ニ關スル條約案」及  
「商業及事務所ニ於ケル就業時間ノ規律ニ關スル條約案」  
ニ付帝國ノ採ルヘキ措置ニ關シ閣議決定アリタル次第ニ依  
リ別紙ノ通上奏致度候間可然御取計相成度前記條約案ノ正  
文及譯文各四部相添ヘ此段申進候也

(附記、閣議決定ノ請議ハ社會局ニ於テ手續中、未タ右  
決定ニハ至ラサルモ之ニ引續キ本件ノ決定ヲ見ル様前例  
ニ依リ取計フコトニ打合せ濟)

(上奏案)

昭和五年六月瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル  
第十四回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル強制勞働ニ關スル條約  
案竝ニ商業及事務所ニ於ケル就業時間ノ規律ニ關スル條約  
案ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約勞働編ノ規定ニ基  
キ遅クトモ昭和六年十二月二十七日迄ニ權限アル機關ニ付  
議スルヲ要スル次第ニ有之候處政府ニ於テハ右二條約案中  
強制勞働ニ關スル條約案ハ本條約案ニ謂フ所ノ強制勞働我  
國ニ存在セザルヲ以テ之ヲ採用スルモ實施上何等ノ支障ナ  
キニ依リ之ヲ採用スルコト可ナリト認メ候條右條約ノ御批  
准相仰度又商業及事務所ニ於ケル就業時間ノ規律ニ關スル  
條約案ハ其ノ趣旨適當ナルモ今直ニ之ヲ採用スルコトハ我  
國現下ノ實情ニ鑑ミ困難ナルヲ以テ現在ニ於テハ之ヲ採用  
スルコト能ハザルモノト認メ候依テ此ノ際前例ニ依リ別紙  
ノ通樞密院ニ御諮詢被爲在候様仕度玆ニ狀ヲ具シ別冊奉供  
欽聞候

右謹デ奏ス

昭和六年十二月十七日

外務大臣 犬養 毅

(御批准文案)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル  
日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
朕昭和五年瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル第  
十四回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル強制勞働ニ關スル條約ヲ  
閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス  
神武天皇即位紀元二千五百九十二年昭和七年 月 日  
ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム  
御 名 國 璽

外 務 大 臣

第十四回國際勞働總會ニ於テ採擇セラレタル條約案  
ニ對スル處理案

(一)

第十四回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル強制勞働ニ關スル條約  
案ハ本條約案ニ謂フ所ノ強制勞働我國ニ存在セザルヲ以テ  
之ヲ採用スルモ實施上何等ノ支障ナキニ依リ之ヲ採用スル  
コト可ナリト認ム

(二)

第十四回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル商業及事務所ニ於ケル  
就業時間ノ規律ニ關スル條約案ハ其ノ趣旨適當ナルモ今直  
ニ之ヲ採用スルコトハ我國現下ノ實情ニ鑑ミ困難ナルヲ以  
テ現在ニ於テハ之ヲ採用スルコト能ハザルモノト認ム

(付記二)

六年 第一一五號  
外 甲

(10月15日接受)

昭和七年十月十四日

内閣總理大臣子爵 齋藤 實〔印〕  
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

指 令

昭和六年十二月十七日條一機密第五七四號  
第十四回國際勞働總會ニ於テ採擇セラレタル條約案ニ對ス  
ル處理案上奏ノ通裁可ヲ經タリ

148 昭和7年10月22日 内田外務大臣より  
在ジュネーヴ杉村公使宛

杉村公使の連盟次長職留任を要請について

唯南洋群島築港費ノ問題ニ關聯シ諾威委員ヨリ本年二月十一日ノ「ジュルナル、ド、ジュネーブ」紙上ニ日本ハ國際條約ヲ無視シ南洋群島ニ海軍根據地ヲ建設セル旨ノ記事アリトテ（委員會一委員ノ内話ニ依レハ右ハ「グアム」邊リヨリ出テタル報道ナル趣ナリ）説明ヲ求メタルニ付本官ハ斯カル風評ノアルヲ聞クハ初耳ナリ、然レ共帝國政府ハ委任統治條項ヲ遵守シ居リ右風説ハ全然虛報ナルヲ確信スト答ヘタル處議長「イ」モ亦巴里ニ於テ同様ノ評判ヲ聞キタリト述ヘ且ツ帝國年報ヲ見ルニ千九百二十六年以後南洋群島ノ築港費ハ著シク増加シ居リ又夫レ迄年報ニ記載シアリタル軍事ノ項ハ略時ヲ同フシテ削除セラレタリ前記風評トモ合セ考ヘ築港費ノ異常ナル膨脹ハ軍事的施設ト何等カノ關係アルニ非サヤトノ質問ヲ爲シタルヲ以テ本官ハ南洋群島築港費ノ増加ハ千九百二十六年以來「サイパン」ノ築港ニ著手シタルニ依ルモノニシテ之カ目的ハ單ナル經濟上ノ理由ニ外ナラス軍事トハ何等ノ關係ナシト説明シ置キタリ右ニ對シ議長ハ委任統治委員會カ本問題ヲ持チ出シタルハ委員會ト受任國トノ協力ノ精神ニ基クモノニシテ委員會トシテハ斯カル風評ノ立テル以上受任國ノ注意ヲ喚起シ以テ

半公信

拜復御祝辭ヲ賜ハリ且ツ有益ナル意見御具申相成リ拜謝候貴官ニ於テモ日夕ノ御心勞恐察致居候處愈々御健勝ノ段奉慶賀候

陳者貴官ノ聯盟事務局備聘期間更新ノ件ニ関シテハ客年六月澤田局長ノ報告ニ依リ委細承知致居又最近ノ報告ニ依レハ過般「ドラモンド」氏愈々辭職ノ意思ヲ決定シ表明シタル趣ニ有之從ツテ貴官モ從來承知致居候處ニ據レバ此際「ド」氏ト共ニ事務局辭任ノコトヲ御考慮可相成ニ至ルカト拝察致候處貴官ガ聯盟事務次長トシテ事務局内部ニ在ッテ活動セラレ為メ我方ノウクル便宜、利益ノ着大ナルコト申ス迄モナク此点ニ関シ甚ダ謙遜ナル御言辭アリシモ當方トシテハ貴官ガ所謂我代表部ト聯盟側トノ間ニ立チ二重人格ヲ以テ行動セラル、コトノ如何ニ難事ナルカヲ充分諒察シヨリ、愛國ノ熱誠ニ加フルニ拔群ノ才幹經驗ヲ以テスル貴官ノ御骨折ナクンバ到底今日ノ成果ヲモ收メ得ザリシ事情ヲ篤ト承知シ居ル次第ニシテ今後トモ益々御苦心ノ舊ナラザルモノアルベキコトハ充分之ヲ諒ト致候モ目下帝國ノ直面セル重大ナル時局ニ際シ聯盟ニ於ケル貴官ノ現地位

ハ是非之ヲ保存活用スルノ要アリ而シテ之ヲ維持シ且ツ活用スルニハ貴官ヲ煩ス外ニ適當ノ方法ナキ事情ヲ考慮セラレ此際ハ難ヲ忍ンデ留任ノ決意ヲ固メラレ邦家ノ為メ今暫ク引續キ御奮闘相成様切ニ希望致候時局ノ前途重大ナル折柄ニモ有之此段不取敢得貴意候 敬具

追ツテ本信内容ハ澤田局長ニ御内話置願上候

149 昭和7年11月13日 在ジュネーブ沢田連盟事務局局長より  
内田外務大臣宛（電報）

南洋群島海軍根據地建設の風評に関する連盟  
委任統治委員会における討議につき伊藤次長  
より報告

ジュネーブ 11月13日後発  
本 省 11月14日前着

第六二七號

伊藤ヨリ

第二十二回委任統治委員會ハ十一日午後帝國政府年報ヲ審査シタルカ年報ニ付テハ左シタル問題モナク之ヲ議シシタリ

委員會カ委任統治條項ノ遵守ニ付注意ヲ怠ラサリシ事ヲ證スルノ必要アリ依ツテ本官ニ於テ斯カル風評ノ全然虛報ナル事ヲ聲明セラルレハ好都合ナリト述ヘタルヲ以テ本官ハ前述ノ如ク此ノ種風評ノアリタル事スラ知ラサリシ次第ニシテ「サイパン」其他ノ築港ハ全ク經濟上ノ理由ニ出ツルモノト確信ス此點帝國政府ニ於テモ本官ノ所述ヲ裏書スルノ結果ヲ見ルヘシト信スルモノ一應帝國政府ニ本件討議ノ經緯ヲ傳達スルト共ニ政府ノ聲明ヲ求メ其ノ上ニテ正式ニ書面ヲ以テ回答スヘシト答ヘ置キタリ  
就テハ至急何分ノ儀御回電アリタシ

150 昭和7年11月22日 在ジュネーブ沢田連盟事務局局長より  
内田外務大臣宛（電報）

強制労働条約の批准登録について

ジュネーブ 11月22日後発  
本 省 11月23日前着

第六四一號

十月二十日附貴信條一普通第一七二號ニ關シ  
昨二十一日批准登録ヲ了セリ

尙同日迄ニ登録済ノ國ハ貴信御來示以外ノモノハ勃牙利  
(客月二十二日登録)ノミナリ

151 昭和7年12月13日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局局長より  
内田外務大臣宛

連盟事務局幹部人事に関する理事会決定について  
機密聯本公第三五三號 (昭和8年1月9日接受)

昭和七年十二月十三日  
在壽府

國際聯盟帝國事務局局長 澤田 節藏〔印〕  
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

聯盟事務局幹部人事ニ関スル理事会決定ノ件  
聯盟理事会ハ十二月九日秘密会ヲ開キ聯盟事務局幹部ノ人  
事問題ニ付別紙ノ通決定シタリ右不取敢報告ス

(別紙)

十二月九日理事会秘密会決定事項

一、「アヴノル」ハ明年六月末迄現在ノ俚トスルコト(同  
人事務副総長ノ任期ハ元来本年十二月末ニテ終了ス)

153 昭和7年12月16日 在米國齋藤臨時代理大使より  
内田外務大臣宛(電報)

チャコ紛争解決中立委員会による四十八時間  
以内の戦闘休止などを内容とする紛争解決協  
定の提案について

ワシントン 12月16日後発  
本 省 12月17日前着

第六六九號(後廻電報)  
往電第六六二號ニ關シ

十五日中立委員會ハ「ボリビヤ」、「パラグアイ」兩國ニ對  
シ「チャコ」紛争解決協定ヲ提案セリ

右ニ依レハ協定調印後四十八時間内ニ戦闘ヲ休止シ調印後  
一ヶ月内ニ批准スルコト、批准交換後四十八時間内ニ「パ  
ラグアイ」軍ハ「パラグアイ」河以東ニ、「ボリビヤ」軍  
ハ「ビルコマエ」河岸ノ F. T. Ballivan ヨリ「パラグア  
イ」河岸ノ F. T. Viriones ニ至ル線迄撤退シ係争地帯内  
ハ西徑六十度十五分以東ハ「パラグアイ」國、以西ハ「ボ  
リビヤ」國、警察任務ニ服スルコト、境界線ニ關シ異議ア  
ルトキハ紐育米國地理協會、倫敦公立地理協會及馬德里地

一、「トレンデレンブルグ」(独)及「ピロツケ」(伊)ヲ  
事務次長ニ任命ノ件確認(C: 804)但シ「ピ」ハ十二  
月十五日迄伊ノ官職ニアル要アルヲ以テ同人ノ宣誓ハ  
一月理事会トスルコト(「ト」ハ同日公開理事会ニテ  
宣誓セリ)

一、副事務総長任命ノ件ハ延期ノコト(候補者トシテハ現  
少数民族部長「アスカラテ」(西)有力ナルモ瑞典等  
ハ現社会部長「エクストランド」(瑞典)ヲ推ス

152 昭和7年12月15日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局局長より  
内田外務大臣宛(電報)

メキシコの連盟脱退通告について

ジュネーヴ 12月15日前発  
本 省 12月15日後着

第六七〇號

十四日墨西哥ハ聯盟分擔金ノ負擔ニ堪エストノ理由ニテ聯  
盟脱退ヲ通告セル趣ナリ  
米、墨ヘ轉電セリ

理協會ノ任命スル専門家ニ依リ決定セラルヘキコト、四ヶ  
月以内ニ仲裁裁判ニ依リ解決セサルトキハ海牙國際司法裁  
判所ニ移管スルコト等ヲ提案シ居レリ右提案ハ同時ニ中南  
米諸國及聯盟ヘモ電報セラレ特ニ聯盟理事會議長「デ、バ  
レラ」宛電報ニ於テハ理事會議長及聯盟諸國カ中立委員會  
提案ヲ支持シ「ボリビヤ」、「パラグアイ」兩國ニ受諾方ヲ  
勧誘センコトヲ切望スル旨記サレ居レリ  
聯盟、亞爾然丁、智利ニ轉電セリ

154 昭和7年12月17日 在メキシコ堀(義貴)公使より  
内田外務大臣宛(電報)

メキシコの連盟脱退通告は威信失墜の連盟を  
離れ米國との関係を緊密化させるための同国  
外相の策謀との観測について

メキシコ 12月17日後発  
本 省 12月18日前着

第一一五號

往電第一一三號墨西哥ノ聯盟脱退ニ關シ新聞紙中ニハ外務  
省發表ノ趣旨ニ共鳴シテ二年以内ニハ國家財政ノ立直リト

共ニ脱退ノ實現ヲ見サル事ノ可能性ヲ強調スル者アリ他方ニ於テ在(脱)?使臣中西班牙大使ノ如キ聯盟内部ニ羅典、米諸國ヲ糾合シタル「ブロック」ニ西班牙カ自ラ盟主タル現狀ニシテ一角崩壊ヲ悲シム本本國ノ輿論ニ反シテ頻リニ本次ノ聲明ヲ遺憾トシ脱退ノ實現セサルヘキ事ヲ宣傳シツアルモ本使カ各方面ノ接觸ニ依リ得タル印象ニ依レハ一年前米國嫌ヒヲ以テ許サレシ「エストラダ」外務大臣カ「モンロー」主義反抗ヲ表明スルト墨西哥ノ國際的水(平)運動ノ二方面トシテ採用シタル聯盟加入ハ今日既ニ完全ニ其ノ目的ヲ達シ昨今威信失墜セル聯盟ニ留マルノ徒勞ナルヲ感シタル現任外相ハ脱退ニ依リ米國トノ關係ヲ更ニ緊密ナラシムル利益ヲ打算シテ決行シタルモノニシテ普通第二四九號ヲ以テ報告セル三箇月前ノ議會ニ於ケル脱退論ノ如キ外相自身ノ操縦ニ依リ動キタル形跡スラアリ旁財政問題無クトモ「テイエス」外相ノ下ニ於テ脱退カ殆ト必至ノ形勢ニ在リシモノト見ルノ正當ナルカ如シ

聯盟ニ轉電シ米ニ暗送ス

編 注 「ム」の個所に「ミ」の書込みあり。

155

昭和7年12月21日 在米国斎藤臨時代理大使より  
内田外務大臣宛(電報)

チャコ紛争に関し米国大統領が武器輸出禁止  
に関する特別教書を議会に送付との新聞報道  
について

ワシントン 12月21日後発  
本 省 12月22日着

第六七九號

往電第六六九號ニ關シ

十九日華府A、Pハ「チャコ」紛争解決ニ對スル中立委員會ノ斡旋進行中ナルニモ拘ラス米國及歐洲方面ヨリ「ポリビヤ」、「パラガイ」兩國ニ對シ多量ノ武器軍需品輸出セラレ居ル實情ニ鑑ミ「フーヴァー」大統領ハ近日中議會ニ對シ平和ニ對スル現實乃至可能的脅威ト看做サルル何レノ國ニ對シテモ武器輸出禁止ヲ宣言シ得ル權能ヲ附與センコトヲ要求スル特別教書ヲ送附スヘシト報セルカ二十一日諸新聞ハ何レモ同趣旨ノ報道ヲ傳ヘ居レリ

尙「パラガイ」國政府ハ中立委員會提案ニ絶對反對ナル旨ヲ返答シ「ポリビヤ」國政府モ「パラガイ」國カ同提案ヲ

拒否セル以上之ヲ取上クル必要ヲ認メサル旨回答ヲ發シタル爲二十日ノ同委員會ハ兩國政府ニ對シ同提案ニ對シ再考慮ヲ促ス電報ヲ發シタリ

\*事項編注

滿州事変および上海事変をめぐる対国際連盟関係文書については、既刊『日本外交文書 滿州事変』第二卷(全二冊)参照。

壽府聯盟、亞爾然丁、智利ニ轉電セリ